


ゲゲゲの鬼太郎
DVD-BOX1
2007TVシリーズ

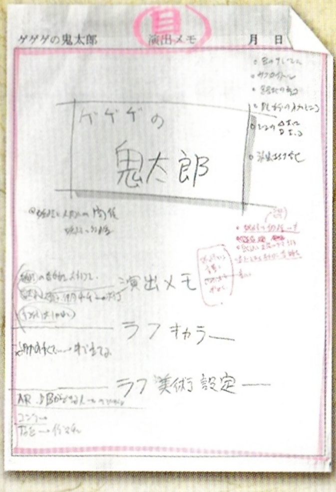
もくじ



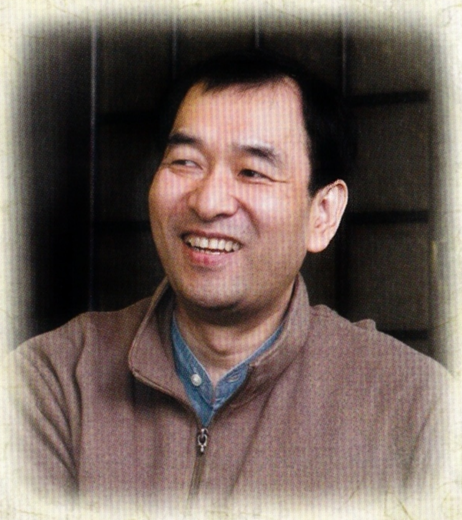
シリーズディレクター・演出

貝澤幸男 独占インタビュー PART1

シリーズディレクターを務め、第1・19・27・40・52・69・81・96話の演出を担当した、第5シリーズ『ゲゲゲの鬼太郎』の立役者・貝澤幸男。本巻と次巻の2回に分けて、彼のインタビュー記事を掲載する。本巻では、主人公である鬼太郎と妖怪たちへの想いに焦点を絞ってお話を伺った。



本作の演出にあたって作成した、通称・貝澤メモ。演出方針や初期キャラクター設定が細かく描かれている、第5シリーズ『鬼太郎』ファン垂涎の資料と言えよう



―まず第5シリーズとの出逢いからお聞かせください。

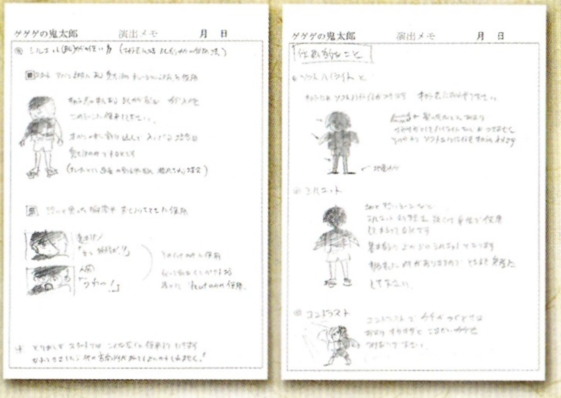
貝澤　僕は第4シリーズ（'96年版）をちょっと手伝わせて頂いたんですけど、機会があればまた『鬼太郎』に関わってみたいと思っていたんです。そこに第5シリーズの話があり、「ああ、これはもう万々歳だ！」と参加させて頂きましたね。第4シリーズまでの歴史がありますので、それを崩さないような形で、新しい第5シリーズの世界観を描くことができれば、と考えました。前々から僕は「身近にある恐ろしさ」が大好きだったんですが、そういったところから『鬼太郎』の世界に入っていけると面白いんじゃないか、と思ったんです。

―貝澤さんが参加された時点では、どの程度企画や設定の骨子が固まっていたのでしょうか？

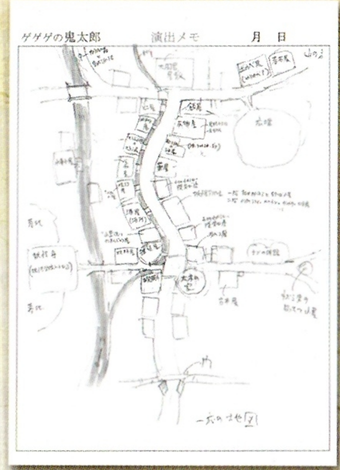
貝澤　いや、まだ全く決まっていなかったです。三条（陸）さんがシナリオライターで参加されることは決まっていたと思いますが、絵的にどういった『鬼太郎』にしていくのか、という辺りはまだ白紙のままの状態でしたね。妖怪横丁はシナリオを構成していく段階でできていくんですが、妖怪横丁を含めて、どんな世界観にしたいのかというアイデアイメージを絵で描きつつ、頭の中で形を作っていきました。

―妖怪横丁をはじめ、今シリーズの『鬼太郎』の設定はどのような流れで決められていったのでしょうか？

貝澤　スタッフ間の話し合いの中で、三条さんの考える『鬼太郎』のイメージも聞きながら、絵にしたときの形を考えていきました。これまでの『鬼太郎』には、ヒーロー性や子供たちを守るというイメージがありましたが、第5シリーズでそれらをどう再構成するか、という辺りは自分なりに悩みましたね。鬼太郎も今シリーズでは、のんびりとした感じの、お父さん想いの鬼太郎になっていますが、そういった家族を包



ハイライトや影に関するアイデアメモ。「こういったものを描いたうえで、キャラデザインの上野さんと、いろいろと話を重ねながら、だんだんと形にはなっていったのかなと思います」（貝澤談）



妖怪横丁の地図。各妖怪の家の位置関係が手に取るようにわかる

み込むような鬼太郎の行動半径といった設定も、この時考えたものです。

——原作や妖怪に対しては、どのような考え方で取り組まれましたか？

貝澤　今回、原作そのままの話は少なかったと思います。殆どのお話がオリジナルだと思うんですよ。原作には完全に決まったひとつのイメージがありますので、そこを基点としつつ、そこから話を広げていったという感じです。

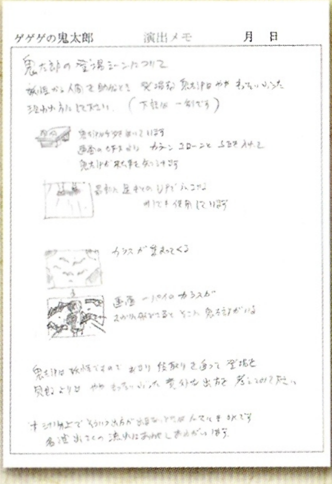
また妖怪は、昔から人々の割と身近な環境の中にある暗さとか恐怖、闇の中に何かが潜んでいるという感覚から生まれたものだという考えがありましたので、妖怪が出る雰囲気みたいなものを、作品を観る人が感覚として味わえないといけないと思うんです。妖怪の恐さというのは、ただ人を驚かすのではなく、存在することに対する恐怖であり面白さだと思います。今シリーズは、恐いというより、お笑いがあったり感動があったり、ちょっと不思議な妖怪の味を楽しむ話が多かったんじゃないかと思います。ユーモア溢れる妖怪の存在も、今シリーズのテーマのひとつであり、バラエティに富んだ形にできたのではないでしょうか。

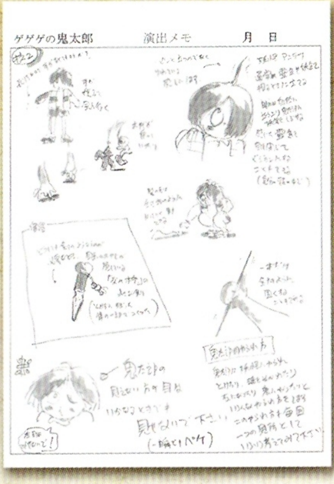
——「身近な恐怖」の源泉は、既に第4シリーズでの演出に萌芽が見られますね。

貝澤　第4シリーズでは、単なるひとつの演出でした。『鬼太郎』に関わる人というのは、やはり『鬼太郎』に対してすごく思い入れが強いんですよ。ライターさんにしろアニメーターさんにしろ、演出さんによっても「僕はこういう風に鬼太郎を演じ（演出し）たい！」と（笑）。僕は、第4シリーズではやはり「恐さ」を出したいということで「夜叉」（第4シリーズ・第3話「ギターの戦慄！夜叉」［脚本：雪室俊一／作画監督：木下和栄／美術：伊藤岩光］）では、そういった方向性から演出をしました。今シリーズでシリーズディレクターという立場になり、観ている人の身になってあらためて考えたんです。ただ恐いだけの妖怪ではなく、バラエティに富んだ演出で観せていきたいなという考えがありましたね。

貝澤幸男

かいざわ・ゆきお：長野県出身。'81年4月、東映動画（現・東映アニメーション）に入社。『とんがり帽子のメモル』（'84年）で演出家デビュー。『ビックリマン』（'87年）でシリーズディレクターに昇格。代表作は『地獄先生ぬ〜べ〜』（'96年）、『ふしぎ魔法ファンファンファーマシィー』（'98年）、『貧乏姉妹物語』（'06年）など（以上、シリーズディレクター）。







鬼太郎の特殊能力設定の数々。これまでのシリーズにはない、独自のカラーが強く打ち出されている

——今シリーズ・オリジナルの設定で、貝澤さんから提示されたものはありますか？

貝澤　当初から考えていたアイデアはいろいろとあるんですよ。各演出家に見せるために描いたスケッチもあります（と、自身で描いた演出メモ［貝澤メモ］を取り出して）。鬼太郎はチャンチャンコや髪の毛、リモコンゲタといったものを使いますが、それらを今回、どういう風に演出していくのか、どうやって絵で表していくのかを考えながら描いたんです。最初自分の頭の中でイメージして、さらに実際に描いたものをまた見ることで、新しい形が見えてくることもあります。カラスが散った後には必ず鬼太郎がいるといったアイデアもこの時考えたんです。ゲタにしても、単なるリモコンゲタではなくて、ゲタを手に持って、クンフーのように武器として使ってみようとか。部分的に、角銅（博之）さんの話数でも、これを上手に使って頂いた回がありました。

——髪の毛を硬質化させて、剣のように使うアイデアも貝澤さんが考えられたのですか？

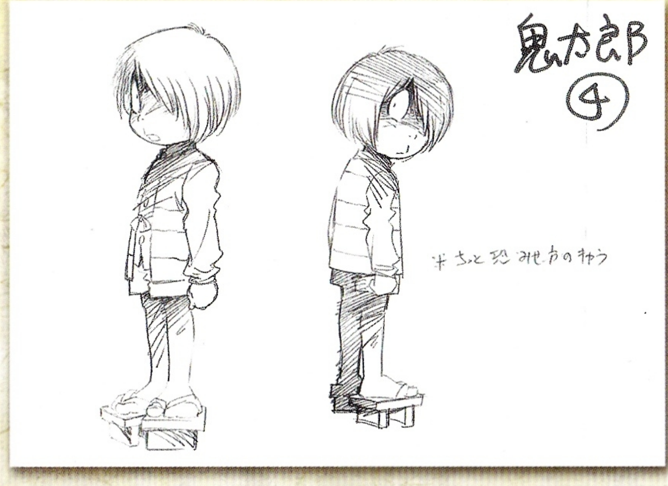
貝澤　それは、三条さんから「剣みたいに使いたい」というアイデアを頂いて、それを僕が絵にしたという感じでしたね。

——今シリーズの鬼太郎は、第3シリーズ（85年版）の鬼太郎にあったヒーロー性とは、また異なる性格付けがされている印象があります。

貝澤　最初に、今シリーズのひとつのテーマである「家族」というものについて考えたんです。普段は妖怪横丁のはずれで親子でのんびり暮らしている鬼太郎ですが、何か起きた時には活躍して、正義感の強い少年に変化していく。第3・第4シリーズのような正義感溢れる鬼太郎よりも、そういった変化を持つ鬼太郎を、『鬼太郎』の世界観、または鬼太郎の魅力として出せればいいんじゃないか、そういった狙いがあったんです。

——鬼太郎が「やぁ、人間のみなさん」と言うときの鬼太郎の顔にかかっている斜線は、「貝澤タッチ」というか、貝澤さんらしい演出だと思いました。

貝澤　そうですか（笑）。最初は、鬼太郎が恐い、翳りのある表情をしたときに少しシルエット処理をしようか、と考えていたんですよ。それを作画監督の上野（ケン）さんに確認したときに、単にシルエットで落とすだけじゃ面白くないので、完璧にブラックにしてちょっと斜線を入れるぐらいの



上野ケンとの話し合いの中で生まれた、鬼太郎のシルエットのラフスケッチ



雰囲気にできると面白いんじゃないか、ということで、ああいう感じになりました。

――シルエットが強調されているのはアバン(=オープニング前のプロローグシーン)だけで、本編になると外していますね?

貝澤　外す指示をした訳ではないんですが、普通の影処理とはちょっと違いますので、演出さんにとって使いづらかったんじゃないかと思います。それ用のカットを作って、かなりメリハリをつけて使っていかないといけませんので。例えばこのスケッチの中にも「恐いと思った瞬間には使用してください」と書いてあるんですが、実際にはこれが理解できていなかったというか、理解されないというか(笑)。使い方としてちょっと難しかったのかな、と思います。

――「やぁ、人間のみなさん」というセリフも含めて、鬼太郎の側から視聴者に語りかけるという形は、今までにないパターンでした。

貝澤　シナリオ打ち合わせの時に、導入部としてアバンを付けることが決まり、だったら鬼太郎にセリフを言わせようということになったんです。そして、三条さんの提案もあって、妖怪である鬼太郎に「やぁ、人間のみなさん」というセリフを言わせることに決まったんですよ。

――第5シリーズでの妖怪と人間の関係や結末の持っていき方にも、貝澤さんなりの妖怪や鬼太郎に対する考え方が関わっているのでしょうか?

貝澤　鬼太郎には妖怪ハンターみたいな側面がありますが、人間と妖怪とでは、どっちが悪いのだろうかと考えた時に、その問題を鬼太郎なりにどう受け止めるかが、『鬼太郎』のひとつの魅力だという気がするんですよ。確かに人間に悪さをする妖怪もいますが、妖怪というのは元々暗い影とか闇の中にいて、人間を脅かすのが本性であり、本分なんですよ。ただそういった、人間を脅かしたり悪戯をしたりする本性を、鬼太郎は多分認めているんじゃないかと思うんです。それを認めた上で、ある一線を越えてしまった妖怪や人間に対して、鬼太郎が動き出すんです。鬼太郎に助けを求める子供が現れたりして、鬼太郎が「これは一線を越えてしまったな」と判断するんですね。鬼太郎がそれらに対してどう判断していくのか、という目で観ることも、ひとつの魅力になっているのではないでしょうか。

(2009年12月某日 早稲田「喫茶ぷらんたん」にて)

半世紀以上にわたって愛され続ける妖怪ヒーローの誕生からこれまで

『ゲゲゲの鬼太郎』―シリーズのあゆみ―

昭和29年（一九五四）

鬼太郎の誕生 紙芝居から国民的キャラクターへ

昭和8年ごろ、民話を元にした『ハカバキタロー』という紙芝居が流行し、その新作として描かれた4本の紙芝居が、水木しげるによる『鬼太郎』最初の作品だった。その後『妖奇伝』など、鬼太郎の世界観を踏襲した作品を発表して徐々に人気を博していくことになる。さらには講談社『週刊少年マガジン』誌に掲載が決まり、鬼太郎と並ぶ代表作『悪魔くん』とともにテレビアニメ化。国民的キャラクターとしての地位を確立していった。



昭和43年（一九六八）

その名も『ゲゲゲの鬼太郎』妖怪たちがお茶の間に現れた

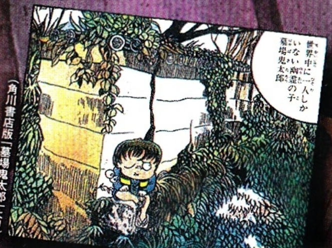
親しみやすさを出すため、原作漫画タイトル『墓場の鬼太郎』から『ゲゲゲの鬼太郎』に変更されて最初のテレビアニメシリーズが放送された。1年3ヶ月、全65話で構成された第1シリーズはモノクロ作品だった。原作漫画にあったおどろおどろしさは極力ひかえめにされている。悪い妖怪を退治する正義のヒーローとしての鬼太郎像が、この時に形作られた。

昭和46年（一九七一）

恐ろしさを引き立たせた妖怪たちの鬼づく世界

約2年半が経過した後、第1シリーズの続編がカラーアニメーションとして放送された。スタッフ陣やアニメのキャラクターデザインは第1シリーズを踏襲。激動の時代を反映した社会性の強い作風を特徴としており、妖怪の不思議な魅力を見る者に強く印象づけることに成功している。また、原作エピソードだけではなく、水木しげるによる他の漫画から題材を取った話も多くなった。





（角川書店版『墓場鬼太郎』より）

その他の出来事

昭和40・41年（1965・1966年） 広がり続ける、鬼太郎の世界

『週刊少年マガジン』に掲載された『墓場の鬼太郎』は当初読み切りシリーズで、先に人気が出始めた『悪魔くん』の影響も受けて連載化された。テレビアニメがスタートすると、原作漫画のタイトルも『ゲゲゲの鬼太郎』に変わり、『たのしい幼稚園』などでも連載が始まっている。『月刊ガロ』では、貸本漫画時代の作品のリメイク版が掲載されていた。

昭和46年（1971年） 多彩な活躍を見せる鬼太郎

原作漫画は『週刊少年マガジン』での連載終了後、『週刊少年サンデー』に移って連載された。アニメ化の影響で他にもさまざまな雑誌に掲載されるようになり、例えば『週刊宝石』では、『鬼太郎ベトナム戦記』という、鬼太郎がベトナム戦争で苦しむ人々を助ける話が掲載された。

昭和60・62年（1985・1987年） 実写ドラマ化

鬼太郎は劇場映画化される前に2度、実写ドラマ化されている。うち1本は、「妖怪王国」を作ろうと企むぬらりひょんと鬼太郎の戦いを特撮アクションのテレ





昭和60年（一九八五）

鬼太郎が妖怪ブームを作り出すまで

第2シリーズの後約13年の時を経て、テレビアニメ第3シリーズが放送される。第2シリーズまでの鬼太郎像を踏襲しつつ、さまざまな設定にアレンジが加えられたリメイク作で、第1・第2シリーズのエピソードも新設定で改めてアニメ化された。主なアレンジとしては、人間たちを守る正義のヒーローとしての活躍と、ぬらりひょん一家との対立構造が強調されたことと、天童ユメコという人間のオリジナルキャラクターが加わったことが挙げられる。

平成8年（一九九六）

平成生まれの鬼太郎は原点回帰した独特の持ち味

3度のテレビアニメシリーズを経ても人気が衰えない『ゲゲゲの鬼太郎』は、原作漫画の雰囲気を意識した第4シリーズを平成の世によみがえらせた。妖怪である鬼太郎という存在を見つめ直し、人間の味方としての親しみやすさだけでなく、不気味さや不可思議さといった要素も盛り込まれた。それまでのシリーズでアニメ化された原作エピソードも新たな解釈で語り直し、加えて作家の京極夏彦を脚本家に起用するなど、オリジナルストーリーにも力を入れている。



平成19年（二〇〇七）

誕生！妖怪横丁　妖怪と人間との共存を目指して

第4シリーズからは約9年。これまでのシリーズともまた様相を変えた新生シリーズとして放送されたのが、本BOXに収録された第5シリーズとなる。現代アニメらしい凛々しさとかわいらしさを併せ持ったキャラクターデザインと、原作エピソードを咀嚼した上で家族の存在、そしてユーモア溢れる妖怪の存在をテーマに、再構築されたストーリー。さらに妖怪横丁など、現代世界と妖怪たちを共存させた世界観が新たに作り上げられた。

平成20年（二〇〇八）

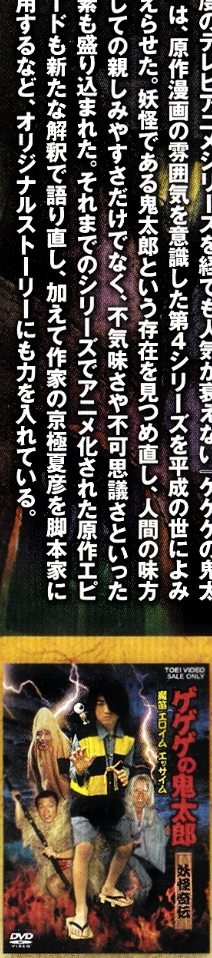
もっとも原作に近い形のアニメ化『墓場鬼太郎』の深夜放送

第5シリーズが放送されている中、全11話の『墓場鬼太郎』が深夜の時間帯に放送された。タイトルの通り、貸本漫画時代や『月刊ガロ』掲載版の原作漫画をベースに作られた作品で、鬼太郎は正義のために戦うわけではない、不可思議な妖怪の子供として描かれている。第1・第2シリーズで鬼太郎を演じた野沢雅子が再び声を担当したことでも話題となった。

ビスペシャルとして放送したもの。もう1本は『悪魔くん』と鬼太郎が共演したビデオオリジナル作品で、敵は再びぬらりひょんだ。どちらも長い間「幻の作品」として知られていたが、現在ではDVDソフト化されている。



テレビスペシャル
『月曜ドラマランド ゲゲゲの鬼太郎』
DVD好評発売中 3,990円(税込)
販売:東映 発売:東映ビデオ



ビデオオリジナル『ゲゲゲの鬼太郎
妖怪奇伝・魔笛 エロイム エッサイム』
DVD好評発売中 3,990円(税込)
販売:東映 発売:東映ビデオ

平成19年（2007年）

実写映画化

実写映画『ゲゲゲの鬼太郎』は「妖怪大裁判」など原作のいくつかのエピソードを元にアレンジしたストーリーで、鬼太郎と人間の少女の恋愛も描かれていた。翌年公開の続編『ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌』は呪いの「かごめ歌」を聞いた少女を鬼太郎が助けるというもので、鬼太郎の出生の秘密やぬらりひょんの野望も絡んでくる映画オリジナルストーリー。ウエンツ瑛士など人気タレントが特殊メイクで妖怪に扮したことも話題となった。

鬼太郎たちとそのデザイン変遷

主要キャラクターを、シリーズごとにピックアップ。彼らの外見のデザインや性格を比較検証してみたい。





鬼太郎

人間の少年に似た姿をしている、正義の心を持った妖怪。幽霊族最後の生き残りで、父親の目玉おやじとともに、妖怪横丁の奥に広がるゲゲゲの森で暮らしている。妖怪に狙われた人間を助けることも多いため、中には鬼太郎を「人間に味方する裏切り者」とみなす妖怪もいる。しかし実際の鬼太郎は、忠告しても過ちを繰り返す人間を見捨てるなど、より公平な立場で彼らと接している。髪の毛針やリモコン下駄など、さまざまな能力を持っているが、アマミ一族のミウから「地獄の鍵」を受け継ぎ、「獄炎乱舞」など、地獄の強大な力を駆使できるようになった。



60's

第1シリーズ

後のシリーズと比べて子供っぽさと素朴な印象が強い。頭身が低く、目の大きさが際立っている。原作漫画に描かれた怖さを薄れさせ、親しみやすい印象と性格になった。



70's

第2シリーズ

第1シリーズの親しみやすい雰囲気を継承し、色鮮やかなデザインになった。必ずしも戦って妖怪を倒す物語ばかりではなく、鬼太郎の性格にも妖怪らしいクールさや怖さが垣間見えるようになった。



80's

第3シリーズ

体つきや表情にメリハリがつき、凛々しい印象が増した。若干頭身が上がって手足のバランスがより自然になっている。人間の女の子である天童ユメコも加わり、人間の味方としての性格付けが特に強くなっている。



90's

第4シリーズ

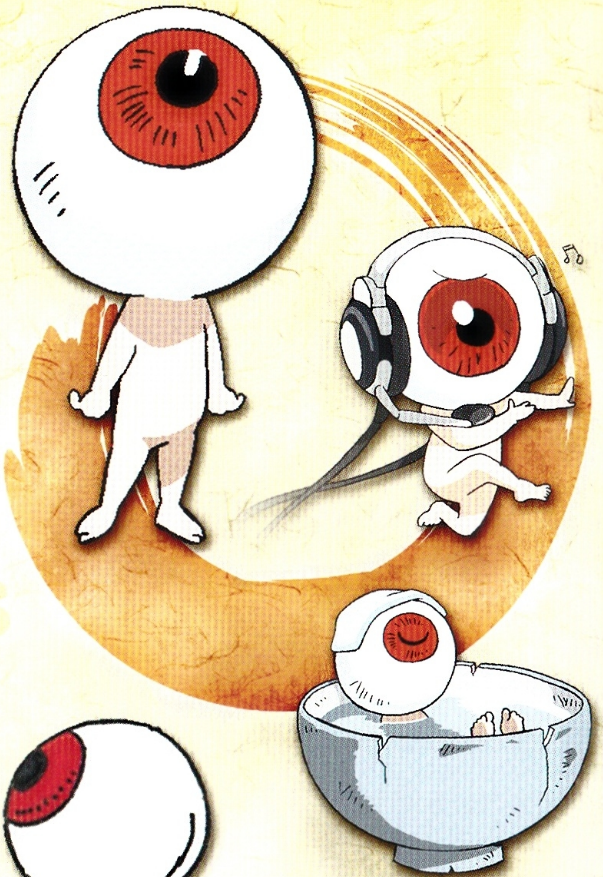
第3シリーズと比べてほんの少し背が伸びた印象で、顔もやや面長になり大人びた雰囲気になっている。性格に関しては、人間とは異なる価値観を持つ、妖怪らしい考え方も表現されていた。

どんなピンチもへっちゃら！

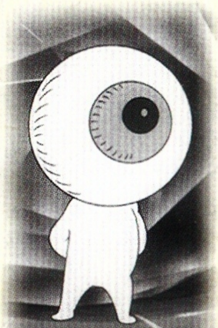
毛羽毛現によって恐竜にされたり、古椿には蜂にされたりなど、幾度も絶体絶命のピンチに見舞われる鬼太郎。それらの危機からよみがえる彼のしぶとさは、妖怪ヒーローならではの強さと言える。



目玉おやじ



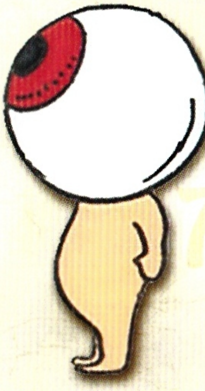
鬼太郎の父親。妖怪について元々広範な知識を持ち、蒼坊主から『古今東西妖怪大図鑑』を贈られている。相手の妖怪を見極め、その対策を教えてくれるよきアドバイザーとして鬼太郎をサポートする。家でのんびりしている時は、鬼太郎にヤカンで湯を注いでもらいながら茶碗風呂に入っていることが多い。無類の風呂好きで、紅茶やお酒、炭酸水などの変わり湯に浸かることも好む。また、お笑いコンビ「タロウズ」のファンになったり、テレビドラマ「FAMILY RESCUE 44」に夢中になってしまったりと、人間界の娯楽に興味をもつが、その熱心さはあまり長続きしないようだ。



60's

第1シリーズ

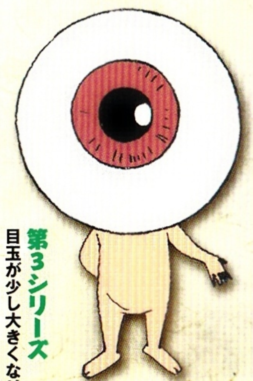
目玉おやじの見た目はほとんど変わりようがないが、性格や行動にある程度変化がある。第1シリーズでは鬼太郎が幽霊族最後のひとりであることを気にしており、一族が由緒ある種族であると誇らしげに語る場面もある。



70's

第2シリーズ

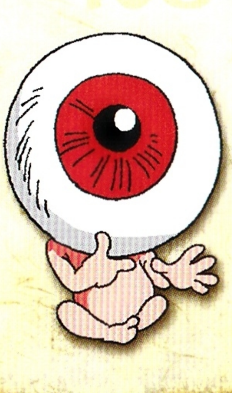
第1シリーズに続き、父親として鬼太郎の身を案じることが多い。目玉おやじは『逆モチ殺し』という技を持っているが、使用すると寿命が縮んでしまうという、原作をアレンジしたエピソードもある。



80's

第3シリーズ

目玉が少し大きくなり、かわいらしい印象が強くなった。このシリーズでは、人間の女の子天童ユメコと鬼太郎の仲をとりもとうとする、世話焼きな父親としての面を見せた。



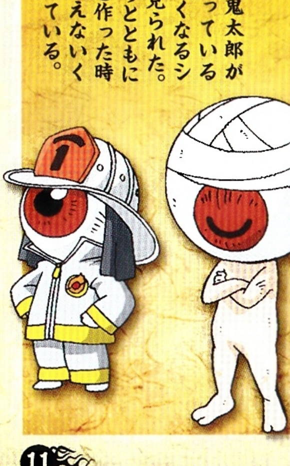
90's

第4シリーズ

原作漫画を意識したエピソードの多い第4シリーズでは、初期のように鬼太郎を心配する目玉おやじの姿がよく見られる。甘やかしていると自覚していても、そうせずにいられないという親心が表れていた。

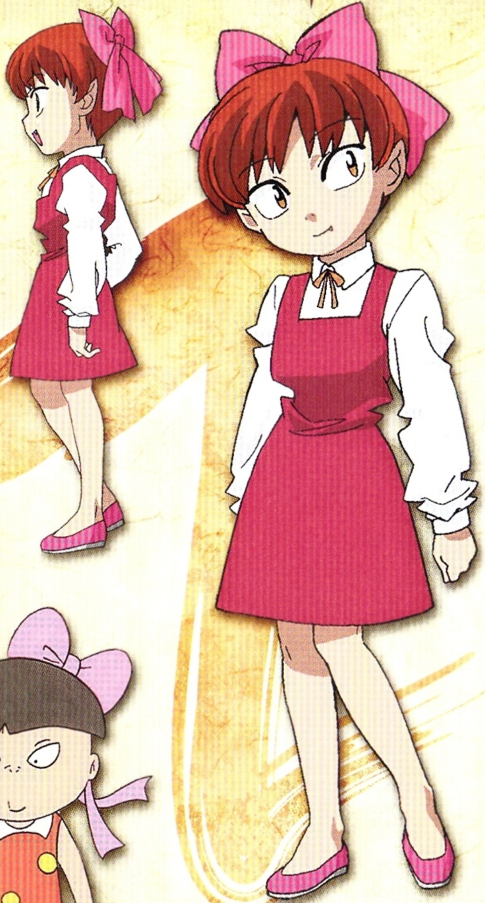
小さな体に熱き心！

第5シリーズでは鬼太郎がクールな性格になっている分、目玉おやじが熱くなるシチュエーションも見られた。第36話でアマビエらとともにレスキューチームを作った時は、鬼太郎の手に負えないくらい暴走してしまっている。



ネコ娘

少女の姿をしている猫の妖怪。怒ると猫の本性が現れ、猫目で牙をむいた恐ろしい形相になることも。鬼太郎とは昔から仲がよく、ほのかな恋心を抱いているが、その想いはなかなか伝わらず、肩を落とすこともある。鬼太郎と行動をともにすることも多く、頼りになる仲間として一緒に妖怪と戦う。人間界ではさまざまなアルバイトをしており、妖怪が悪さをしている情報を鬼太郎にもたらす役割を担うことも多い。また、クロと呼ばれる黒猫を相棒にしており、その猫から妖怪の情報を手に入れたり、アルバイトを手伝ってもらったりしている。激しい気性の持ち主だが、困っていたろくろ首にアルバイトを紹介するなど、優しさも併せ持っている。



60's

第1シリーズ

ゲストキャラクター扱いで、第20話のみに登場。悪さを働くねずみ男を懲らしめる役どころだったが、ネコ娘自身も人間界で悪さをしていた。



70's

第2シリーズ

このシリーズからレギュラーキャラクターとなり、オカッパ頭にワンピース姿のデザインが定着した。鬼太郎と並ぶと少しだけ背が高く、勝ち気な性格をしている。猫の本性を現した時もあまり大きな変化はしていなかった。



80's



第3シリーズ

鬼太郎のデザインの変化に合わせ、ネコ娘も少し頭身が伸びて服装も変更された。白目がちの大きな釣り目は、人間の女の子天童ユメコと対照的なイメージだ。加えて、猫の本性を表わした時の変化が強められている。

90's



第4シリーズ

髪型やリボン、つり目などの特徴は残したまま、柔らかな表情を多めに取り入れている。全体的に女の子らしさが強調された。性格もやや穏やかで落ち着いたものとなっている。

ネコ娘はファッションにもビンカン？

今作は特に、アルバイトの制服や水着などさまざまな服装でネコ娘が登場してくれる。普段着も季節に応じて変化するなど、衣装の豊富さは全シリーズ随一といえる。



ねずみ男

ヒゲや前歯など、ねずみに似た特徴を持つ半妖怪で、妖怪と人間の世界を行き来していつもずる賢く立ち回っている。度重なる彼の裏切り行為にもかかわらず、鬼太郎との付き合いは長く続いており、いわば腐れ縁のような関係になっている。自分のことを「ビビビのねずみ男」と名乗ることもある。いつも金儲けのことばかり考えており、妖怪退治をする鬼太郎をうまく利用して金を稼いでいる。鬼太郎だけでなく、人間やほかの妖怪をトラブルに巻き込むことがあるが、逆にねずみ男自身が悪いことを企む妖怪に荷担して、痛い目にあうケースも少なくない。ぬらりひょんや百々爺などと一緒になって鬼太郎を陥れようとしたこともあるが、鬼太郎の立場が本当に危なくなったときには、損得を考えずに彼を助ける男気を持っている。





60's



第1シリーズ

鬼太郎同様ねずみ男も頭身が低めにデザインされているが、基本的なイメージはこの時点で確立されている。登場の際は、鬼太郎と一緒にいることが多く、よくケンカをしていた。

70's



第2シリーズ

カラーになり、ねずみ男の服が灰色になった。第1・第2シリーズのねずみ男はずる賢さや鬼太郎に対する裏切りが目立つ。場合によっては鬼太郎に襲いかかることもあった。

80's



第3シリーズ

コミカルな面が強められた第3シリーズでは、人間の少女ユメコが好きで何度も言い寄ったり、危険から守るため戦うといった場面が数多く見られる。「女好き」な面だけでなく一途なところも持った、愛すべきキャラクターとなっていった。

90's



第4シリーズ

服の色が灰色系から黄色っぽく変わり、原作漫画のイメージに近づけられた。性格的には第3シリーズからさらに表情豊かなキャラクターに発展し、ネコ娘との掛け合いや普段見せない優しさなどを表した。

お金のためならなんでもやる、けど…？

ねずみ男も人間界でさまざまな仕事をしており、必ずしも人を騙してばかりいるわけではない。見越し入道の赤ん坊を拾った時は、深夜のアルバイトで得たお金で育てていた。逆に白山坊と組む時などは、人間だけでなく妖怪たちも騙して金儲けを企んでいる。

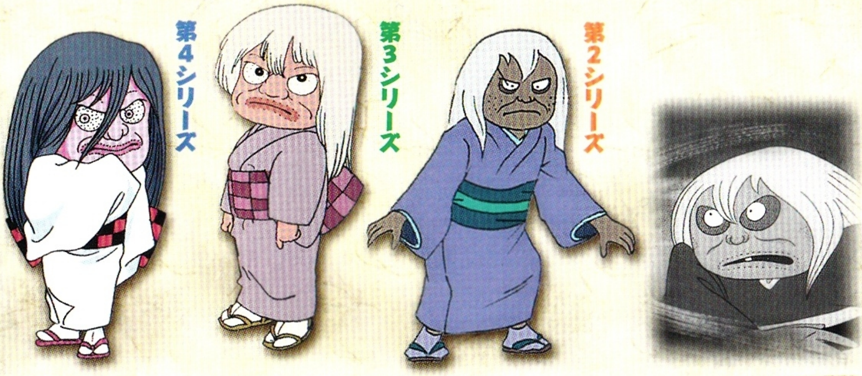


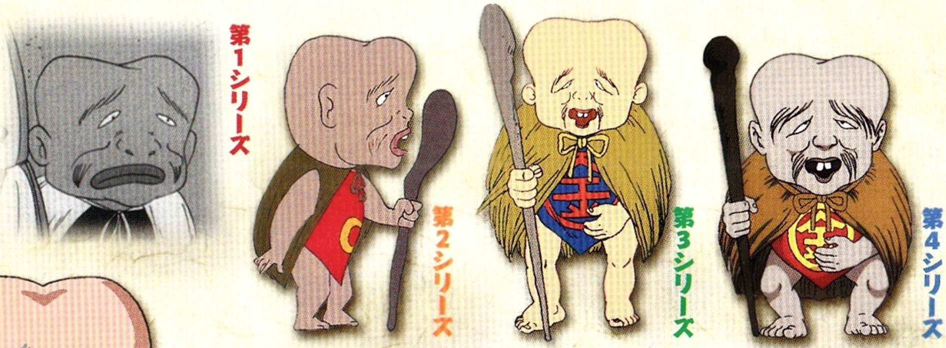
砂かけ婆

妖怪横丁に建てられた妖怪長屋を経営している妖怪。鬼太郎や目玉おやじですら叱りつける気の強い面もある。妖怪砂を使って鬼太郎とともに戦う、頼れる仲間のひとりでもある。初期は見た目からして怖い印象だったが、第3シリーズ以降、鬼太郎たちを世話する母親的側面が加わっていった。第5シリーズでは、アマビエの親代わりを買って出ている。


ネコ娘とともに行動することが多く、おしゃれ着で出かけることも。









子泣き爺

赤ちゃんのように泣くと体が重い石に変わる妖怪で、お酒が大好き。シリーズを通して等身にはほぼ変化がないが、肌やミノの色はシリーズごとにアレンジされている。ガマンのきかない子供のような性格の持ち主だが、第3シリーズでは少し大人っぽい面を見せ、砂かけ婆に愛の告白をしたこともある。



普段はミノ姿だが、外出着もちゃんと用意している。

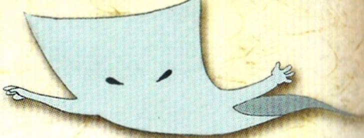




第3シリーズ



第2シリーズ



第1シリーズ

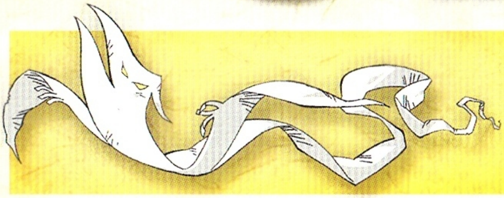


第4シリーズ



一反もめん

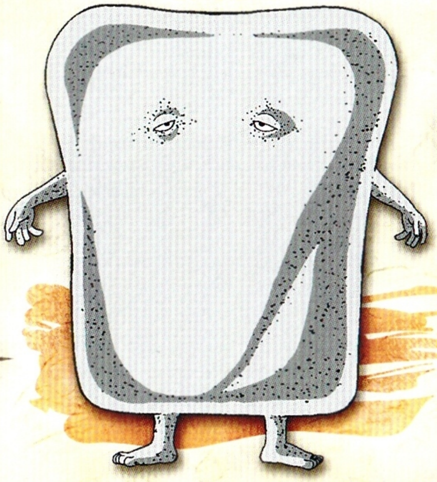
妖怪横丁の住人のひとり。自由自在に空を飛ぶことができるが、体が水に濡れてしまうとその能力がうまく使えなくなってしまう。一反もめんは全シリーズを通して、デザインにほとんど変化がない。第1・第2シリーズでは無口だったが、第3シリーズ以降喋るようになり、ひょうきんな性格も台詞に現れてくる。

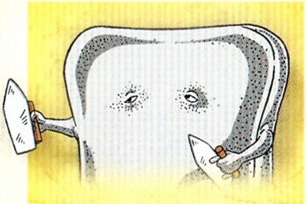


毛羽毛現が横丁にやってきた時は、翼竜風の姿になった。

ぬりかべ

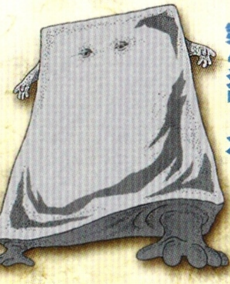
大きな石の壁の姿をした妖怪。妖怪横丁の住人だが、妖怪としては珍しく、妻や子供がいる。口数は少ないが勇敢な心を持っており、戦いの際は重い体でのしかかったり、壁として立ちふさがったりなど、その体を利用して鬼太郎をサポートする。初期から性格、デザインともにほとんど変わらないが、妻子がいるのは第5シリーズのみで、第3シリーズでは人間の女性に恋をしたこともあった。







妻と子供のために、マイホームを自力で建てようとした。



第4シリーズ



第3シリーズ



第2シリーズ



第1シリーズ

古今東西妖怪大図鑑

『ゲゲゲの鬼太郎』第5シリーズの前半、第51話までに登場した妖怪たちを、設定画とともに紹介しよう。初めて登場した話数も掲載。妖怪によっては他の話数にも登場しているので探してほしい。

このマークが入った妖怪は、後に鬼太郎の仲間となり、日本を守るために戦う「妖怪四十七士」として活躍する。

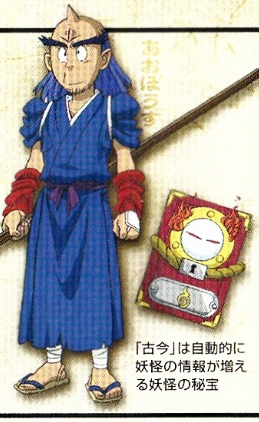
青子 第35話

妖怪横丁に住む死神一家のひとりで、死神九九号の奥さん。夫の稼ぎが乏しく貧乏暮らしをしており、家を守る彼女は骨太と赤子のふたりを育てている。夫を叱りつける怖い面もあるが、根は優しい。



蒼坊主 第17話

鬼太郎が親しみをこめて「蒼兄さん」と呼ぶ心強い仲間で、日本全国を旅しながら悪い妖怪が封印されているか見て回っている。天狗から預かった『古今東西妖怪大図鑑』(通称「古今」)を目玉おやじに持ってきてくれたり、アマビエを横丁に引っ越してこさせたり、さまざまな形で鬼太郎たちの力になってくれる。もちろん、ぬらりひょん一家や西洋妖怪と戦う際には頼りになる助っ人として活躍する。鬼太郎にとって、もっとも頼りになる仲間のひとりだが、方向音痴が玉に傷だ。



「古今」は自動的に妖怪の情報が増える妖怪の秘宝

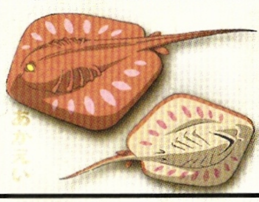
赤頭 第25話

人を驚かすことが好きだが、危害を加えてくることはほとんどない。妖怪大運動会で、西チームに参加していた妖怪のひとり。最終種目のリレーでは第2走者として走っていたが、かわうそに抜かれてしまった。



赤エイ 第51話

巨大ショッピングモールの地下に封じ込められていた非常に巨大な妖怪。海底で眠っている間に海が埋め立てられてしまい、身動きがとれなくなっていたところを、鬼太郎がつるべ火の能力を使って助け出した。



アカマタ 第25話

南方妖怪たちのリーダー格で、沖縄のシーサーとは、同じ沖縄の妖怪として特に仲がいい。妖怪大運動会では前回優勝した南チームのリーダーとして参加し、鬼太郎たちの東チームを挑発した。雨降り小僧が運動会に出たがっていることを知って迎え入れるなど心優しい面もあり、鬼太郎たちとはいいライバルであると同時に、信頼の絆で結ばれている。沖縄によく見られるヘビの妖怪化した姿で、舌を長く伸ばして自在に操ることができる。



小豆洗い 第2話

妖怪横丁の住人のひとりで、まんじゅう屋を経営している。そこで目玉おやじを働かせたこともあったが、うまくいかなかった。ねずみ男が見越し入道の赤ん坊の世話をした時に、商品をみんな食べられてしまったり、横丁に人間のクレープ屋が進出してきた時は客を取られるなど災難も多い。目玉商品として「チャンチャンコサンド」を考え出したり、アマビエをキャンペーンガールに起用したこともあったが、商売はなかなか大変なようだ。



油すまし 第6話

大きな頭に、ミノと杖がトレードマークの妖怪。いつもすました表情をしていて、なかなか感情を表に出すことがない。妖怪横丁の町内会長を務め、油と醸造品を扱う店も開いている顔役で、目玉おやじや夜行さんと並んで、妖怪たちの中の知恵者として尊敬を集めている。地元開催だった妖怪大運動会では、実行委員として夜行さんとともに鬼太郎たち東チームを応援していた。300年ぶりに優勝するため、横丁の妖怪たちに特訓を行った。



天邪鬼 第47話

百々爺と結託して鬼太郎を陥れようとした妖怪。相手の心を読み、その逆の行動を取ることでその人をイライラさせるが、それ以外に悪事を働くことはほとんどないと言われている。



アマビエ 第26話

予言の力を持ち、昔は人々に崇められていた海の妖怪。現在は忘れられて孤独に暮らしていたところ、蒼坊主と出会った。彼の紹介で熊本からやってきて横丁の住人となる。横丁の妖怪長屋で暮らし始めると、自分勝手な性格を持つアマビエは住人たちを困らせたが、砂かけ婆が悪霊に取り憑かれた際、その救い方を予言したことで仲間として認められる。その騒動が収まった後、アマビエは砂かけ婆と親子のように暮らすことなった。



あまめはぎ 第31話

自分の体に生えているキノコを使い、コマ勝負を子供たちに挑んでいた妖怪。子供の足の裏の皮が大好物で、勝負に負けた子供の足の裏の皮を剥いで食べようとしていた。鬼太郎がその子供に代わってコマ勝負を行い、見事勝利してこらしめた。



雨降り小僧

第25話

傘を被り、提灯を手に持つ男の子の姿をした妖怪。気が弱く引っ込み思案で、妖怪大運動会の時は、「自分が参加したら雨が降ってしまう」と隠れて応援していた。運動会を見て興奮した雨降り小僧が、こらえきれずに会場に近づくと雨が降り出してしまったが、鬼太郎やネコ娘たちの訴えとアカマタの配慮により参加できることとなる。提灯を振ることで雷をともなう非常に強い雨を降らすことができ、時には人間の願いに応えてその能力を使うこともある。



一目入道

第42話

仲の良い人間の女の子に避けられた悲しさから、オベベ沼の水神石を盗んで悪さを働いていた妖怪。真相を知った鬼太郎から、寂しくなったら妖怪横丁へ来るように言われるのだった。



以津真天

第12話

ゴミ捨て場に出現した、鳥のような羽を持った妖怪。かつては人の怨霊が集まってできた妖怪だったが、ここで出現したのは、まだ使えるのに捨てられた家電などのゴミに宿った怨念が変じたもの。



井戸仙人

第28話

目玉おやじと古なじみで、さまざまな薬を作る力を持つ知恵者。しかし自己中心的な態度を取るため、目玉おやじとは仲違いしていることが多い。妖怪横丁に毛羽毛現がやってきて住人たちを恐竜に変身させた時や、植物を活性化させる薬でゲゲゲハウスが妖怪化してしまった時などには、それらを元に戻す薬を作って解決してくれた。目玉おやじとはいがみ合っているように見えても、いざという時は力になってくれる、なかなか頼りがいのある存在だ。





海座頭

第4話

朱の盤にそそのかされて、海辺で子供たちをさらい、三年ほど海に漬けたのち食べようとしていた妖怪。舟幽霊を操って動きを封じ、琵琶と水霊鉉を繰り出す攻撃には鬼太郎も苦戦させられた。



うわん

第20話

イタズラ好きで、「うわん」という声を発して人間を驚かすだけの心優しい妖怪。人間に姿を見られると永遠の闇に封印されてしまうと言われている。人間を襲っていた黒坊主から、身を挺して鬼太郎を助けた。



閻魔大王

第7話

地獄の王として死者を裁く裁判長。中立の立場を堅持しているが、目玉おやじとは顔なじみで、鬼太郎のこともある程度は理解してくれている。雪女が妖怪横丁に攻め込んできた時は、危険を承知の上で頼み込んできた目玉おやじに地獄の炎を貸し出した。ねずみ男が夜見の国の霊石を盗んだ時も、鬼太郎がそれを元に戻す刻限を過ぎても寛大な処置をとった。西洋妖怪が鬼界ヶ島を侵略した際には、副官のひとりである五官王を助っ人として派遣している。



狼男ワイルド

第32話

鬼界ヶ島に攻め込んできた西洋妖怪のひとり。伸ばした爪にマニキュアを塗っていたり、アイシャドーをつけていたりするなど、女装趣味を持っている。オオカミたちを従え、地獄からの助っ人である五官王と剣を交えた。



大百足

第13話

宝石店で展示されていた御影石が妖怪に変わったもの。石のカケラそれぞれが大百足の体の一部となっており、合体すると元の百足の姿になる。強い毒を持っており、襲われたぬりかべは体の一部が赤くなる大ケガを負った。



おしろい婆

第25話

北国に住む老婆の妖怪で、顔の表面におしろいを厚く塗っているが、きれいには塗られておらずかえって恐ろしく見える。妖怪大運動会では北チームの一員として参加。リレーのアンカーとして走っている。



おどろおどろ

第21話

人間界で恋人同士を別れさせる悪さを繰り返していた妖怪。血を吸われた女性は青白い顔になり、恋人に別れを告げるようになってしまう。大学教授に化けて女生徒らを呼び出し、血を吸っていた。



お歯黒べったり

第6話

目鼻のないのっぺらぼうの顔に、黒く染まった歯が覗く口だけがある女性妖怪。妖怪横丁の住人のひとりで、銭湯では砂風呂を経営している。銭湯を経営しているのではないかと疑った先でまた、銭湯を経営してのびあがりを呼び込んでしまったり、目玉おやじが働こうとしてうまくいかなかったりなど、いろいろなエピソードがある。銭湯は一度火事になったが、目玉おやじ率いるレスキューチームによって消火され大事には至らなかった。メイド喫茶で鬼太郎が蕾にデートを申し込んだ際には、ネコ娘たちと一緒にその後をつけ、様子をうかがったこともある。





陰摩羅鬼

第50話

3年前に死んだ画家の女性に化け、そのモデルをしている婚約者を呪っていた妖怪。モデルの絵を描くことによって、その体を日ごとに衰弱させていた。鬼太郎は人間の助けを借りて、なんとか霊紙に陰摩羅鬼を封じたのだった。



カイ

第32話

鬼界ヶ島に暮らすアマミ一族のひとり。島が西洋妖怪の襲撃を受けた際、鬼太郎に助けを求めに来た。姉のミウとともに妖怪横丁を再訪した時は、ネコ娘の案内で東京の巨大ショッピングモールなどを見物して回った。



傘化け

第6話

人に出会うと大きな赤い舌を出して驚かす妖怪。もとは古い傘だったのが、長い年月を経て付喪神となり、意思を持つようになった。妖怪横丁で長屋に暮らす住人のひとりで、砂かけ婆に家賃を取り立てられていることが多いが、彼女が気に入るような代わりの品を差し出して追求を逃れることもある。横丁一番のコマ回し名人で、あまめはぎがコマ勝負を仕掛けてきた時は、一反もめんを紐として巻きつけ、逆さになってみずからコマとなって戦った。



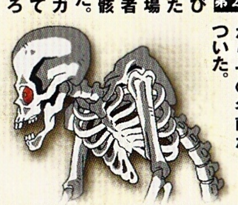


毛羽毛現によって恐竜にされた姿はトリケラトプスに似ている。

がしゃどくろ

第2話

何人もの人間を干からびたような姿に変えていた妖怪。江戸時代に処刑場だった場所で多数の亡者たちが集まり、巨大な骸骨のような姿となった。人間を恨んでいて、ガシャガシャと音を立てて襲いかかってくるところからその名前がついた。



風の神

第25話

妖怪大運動会の障害物競走で、最後の障害を作る役として登場。ゴールに向かって走る選手たちに強風を吹き付けたところ、その競争に参加していた一反もめんを吹き飛ばしてしまった。人間にその風が当たると病気を引き起こすとも言われている。



片車輪

第30話

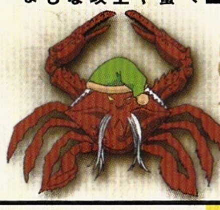
炎に包まれた車輪の姿をした妖怪で、輪入道とよく似ている。ぬらりひょんが蛇骨ばばあに命じて復活させた。人間界の乗り物に次々憑依して街を襲ったが、鬼太郎や雪女たちの活躍で取り押さえられた。



蟹坊主

第8話

ぬらりひょんの命を受け、鬼太郎を襲った巨大な蟹の妖怪。甲羅に髭を生やした老人の顔が浮かび上がり、強力なハサミで攻撃する。もともと狂暴な妖怪で、人を襲うことも多かったため、ぬらりひょんの仲間となった。



かまいたち

第39話

天狗ポリスに捕まり投獄されたぬらりひょんを脱獄させるため、旧鼠が雇った助っ人。頑固な性格のかまいたちを説得するため、ねずみ男が交渉を行い、貴重な少女マンガを報酬にして約束を取りつけた。



釜鳴り

第22話

捨てられた釜の中に棲みついている妖怪。鬼太郎をその釜の中に吸い込み、髪の毛から服や下駄まで身につけている物を奪ってニセモノになりすまし、物を粗末にする人間に復讐しようとした。



髪様

第44話

髪の毛村で崇められていた、一つ目に長い黒髪が生えた妖怪。人々から忘れ去られて妖力がなくなってきたため、手下の毛目玉を使って鬼太郎の妖力を狙うが、鬼太郎に体内電気で逆襲されてしまい、髪が縮れてしまった。



ガラッパ

第19話

池の底にある河童の国の村長。常に亀の甲羅に乗って杖をついており、相撲勝負で行司をする時も軍配を手に烏帽子をかぶった亀の上に乗っていた。奄美大島出身で、別名足長河童とも呼ばれていた種族の者らしい。



かわうそ

第2話

オベベ沼出身の河辺に住む妖怪で、妖怪横丁の住人のひとりで大運動会にも参加している。人間の子供に化けてイタズラを繰り返していたところを、鬼太郎にこらしめられ、横丁に引っ越してきた。気の弱い性格で鬼太郎にピンチを救われることも多いが、鬼太郎がさざえ鬼に食べられてしまった時や、マヒマヒが人々をダマして魂を奪った時など、かわうその大活躍によって鬼太郎たちが助かることもある。アマビエが横丁に来てからは、ことあるごとに彼女にこき使われていた。



川男

第42話

河のそばにたたずんで、ぼそぼそと喋るだけの妖怪。人間に危害を加えることはほとんどない。かわうそが姿を消した時、「水神石の気配が感じられない」と、鬼太郎に手掛かりを教えてくれた。



がんぎ小僧

第25話

川岸に棲んで魚を食べる、カッパに似た水妖の一種。妖怪大運動会では南チームの一員として参加。最終種目のリレーでは南チームの第1走者だったが、なまはげと一緒に転んでしまった。



カンキチ
第19話

池の底にある河童の国の住人。人間と対立することを好まず、池が埋め立てられようとしても平和的な解決を目指していた。



鬼太郎たちはカンキチに協力し、好戦的なシバテンらと相撲で勝負することとなった。

加牟波理入道
第9話

ゆうれい列車のトイレに潜み、人間を脅かしていた。日本全国の古いトイレに棲むとされているが、妖怪というよりもトイレの守り神に近い存在。もっとも、現代の水洗式のトイレで見られることはないという。



キジムナー
第25話

沖縄に棲む木の精霊。妖怪大運動会では、選手ではなく「玉入れ」種目の「玉」役で登場。無数のキジムナーたちを選手がカゴに入れるため捕まえようとするのを、素早い動きで翻弄した。



絹狸
第38話

タヌキの妖怪の一種で、妖怪横丁では反物屋を営んでいる。身につけている着物も自分で作っている。ねずみ男が見越し入道の赤ん坊を横丁に連れてきた時、店を荒らされてひどい目にあった。



牛鬼
第14話

数百年前、迦楼羅神によって封印された強大な力を持った蜘蛛の妖怪。金に釣られて封印を解いたせいで、ねずみ男は体を乗っ取られてしまう。呼び出された鬼太郎はねずみ男を助けるため体を差し出し、牛鬼と一体化した。



吸血鬼ピー
第43話

商店街の福引で「ミステリートレイン旅行」をろくろ首に当てさせて、鬼太郎たちを罠にかけた妖怪。モンローという妖怪と一緒に行動しており、列車の乗客をすべて人形に変えて鬼太郎を襲わせた。



旧鼠
第8話

ぬらりひょんの一味に加わり鬼太郎と戦った妖怪。ネズミが長い年月を経て妖怪になったもので、伸びた前歯から強力な毒を流し込める。ぬらりひょんを脱獄させるため、かまいたちに助っ人を頼んだ。



狂骨
第29話

京都のホテルで修学旅行中の小学生たちを襲った妖怪。子供たちをいろはの順に襲い、白い塊に変えていた。バスガイドとして同行していたネコ娘が戦い、最後はつるべ火の力で駆けつけた鬼太郎に倒された。



クネユスリ
第25話

クネとは「生け垣」のことで、揺すってザワザワと音を出して驚かす妖怪。妖怪大運動会では障害物競走に登場するが、競争に参加するのではなく障害物によじ登る選手を揺すって落とそうとする役目だった。



黒鴉
第36話

天狗ポリスのエースとして、親代わりである大天狗の信頼も篤い存在。松明丸を追う中、蒼坊主とともに妖怪横丁を訪れて鬼太郎と出会い、協力しあうようになった。ネコ娘へ秘かに想いを寄せており、彼女からもらった霊界符を肌身離さず持っている。鬼太郎が地獄の鍵を使って容疑者となった際には、ネコ娘の「助けて欲しい」という願いを立場上断らねばならず、苦悩することとなる。その後、結局鬼太郎を助けようと勝手な行動をとったため、彼と一緒に石積みの罰を受けることになった。



黒鬼髪
第37話

美しい黒髪を持つ女性を襲い、その髪を切っていた妖怪。貧しいために髪の毛を売った女性の怨みから生まれた妖怪で、白鬼髪と対になっている。黒髪神社にその本体が祀られていたが、何者かに盗み出されて事件を起こした。



黒坊主
第20話

廃墟と化した病院などで、探検しにきた子供たちや雑誌記者を襲っていた。黒い霧状になって人を包み込み、息から生気を吸い取ることができる。鬼太郎も襲われ窮地に追い込まれるが、うわんが現れて助けた。



毛羽毛現
第28話

人間を毛嫌いし、「妖怪は太古の恐竜と同じように、自然と共に暮らすべきだ」と考えている妖怪。人間と親しい妖怪横丁の住人たちに怒り、恐竜に変えてしまう。その騒動が収まったあと、妖怪横丁を去ることとなった。



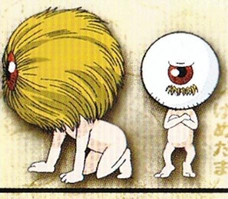
ゲゲゲハウス
第48話

普段、鬼太郎親子が暮らしている樹上の家。井戸仙人が植物を活性化させる薬を発明し、間違えてかけてしまったために妖怪となった。鬼太郎に憧れ、自身も妖怪退治をしようと土ころびと戦い、彼を正気に戻させた。



毛目玉
第44話

顔の毛を剃れば、目玉おやじにそっくりな小妖怪。髪の毛村の髪様に仕えていて、鬼太郎の妖力を奪うために目玉おやじのフリをした。妖怪横丁のみんなはだまされたが、鬼太郎にだけはニセモノだと気づかれてしまった。



五官王 第7話



閻魔大王の副官のひとり。他に宗帝王や泰山王などがいて、閻魔大王が死者を裁く裁判に協力している。ねずみ男が霊石を盗みだし、邪魅が暴れた事件を解決した鬼太郎を高く評価しており、西洋妖怪たちが日本に攻めてきた際には閻魔大王の命令を受け、助っ人としてともに戦った。百々爺の計略で鬼太郎が妖怪たちを裏切ったと責められた時にも、黒鴉とともに鬼太郎の力になってくれている。地獄の裁判官として厳格な面もあるが、頼りになる存在といえる。

逆柱 第15話

妖怪寺に棲みついていた妖怪。柱を上下逆さまにして寺を建ててしまったことから生まれた。丸毛に空き巣を働かせ、盗んだお金で妖怪寺を上下逆さまに建て直そうとしていたが、鬼太郎によって普通の柱に直された。



さざえ鬼 第23話

妖怪横丁の女妖怪たちを海の底にある屋敷に招き、それによって鬼太郎をおびき寄せて食べようとした妖怪。全身が粘液で覆われているため鬼太郎の攻撃が効かなかったが、かわうそが持っていた吸水の砂により倒された。



座敷童子 第7話

東北地方の古い家に住む妖怪で、家を守るよい精霊とも言われている。人間を嫌う雪女が現れた時には、人間と親しくしていたというだけの理由で氷漬けにされてしまった。妖怪大運動会では北チームの一員として参加。



シーサー 第25話

沖縄に棲む妖怪で、獅子に似た姿をしている。同じ沖縄の妖怪であるアカマタとは親しい間柄。妖怪大運動会でも南チームに所属し、北チームのなまはげとともに選手代表として宣誓を行った。



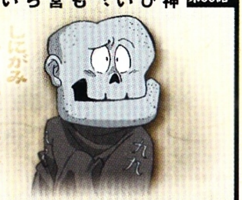
七人ミサキ 第49話

七人一組の妖怪で、ひとり仲間に引き入れるとひとりがあの世に行けるため、近づいた者を仲間に引き入れようとする。ねずみ男が仲間にされたが、呼子があの世から親分を呼び戻したため抜けることができた。



死神九九号 第35話

うだつの上がらない死神で、妖怪横丁の住人のひとり。優しい性格が災いして魂の回収率が低く、妻とふたりの子供とともに長屋で貧乏生活を営む。妻の青子によく叱られるが、息子の骨太がいつもかばってくれる。



死神百号 第35話

死神九九号の上司として働いている、メガネをかけたエリート死神。死神の仕事は死者の魂がさまよわないよう成仏させることで、ノルマがこなせない死神九九号に対して、「クビになるかもしれない」と冷たく言い放った。



シバテン 第19話

池の底にある河童の国の住人。池を埋め立てようとする人間と戦うことを主張し、平和主義者のカンキチと対立していた。高知県に伝わる毛むくじゃらで相撲が好きな妖怪が池に移り住んだものと思われる。



蛇骨ばばあ 第8話

鬼太郎たちに敵対するぬらりひょん一家のひとりで、副官的な立場に立つ実力派妖怪。首にヘビを巻き付けた老婆の姿をしており、ヘビを操って遠くの映像を送らせることもできる。バックベアードと一時的に手を組んだ際に「皆殺しの矢」を譲り受けたり、ぬらりひょんの命で片車輪を復活させたりなどの活躍を見せる。天狗ポリスに捕まって飛騨山中の妖怪刑務所に収監されたが、雪崩に乗じてぬらりひょんや朱の盤とともに脱走に成功。鬼太郎たちとの次の戦いに備えている。



邪魅 第27話

夜見の国に棲む狂暴な妖怪。ねずみ男が霊石を盗んで地上への出口を開いてしまったため、亡者たちとともに地上に出ようとした。けれども鬼太郎たちの活躍で霊石が元に戻されてしまい、地上に出ることは結局できなかった。



朱の盤 第4話

ぬらりひょん一家の中でも、もっともたくさん働かされている下っ端妖怪。大きな頭に1本の角が生えているのが特徴で、人間界で悪さを働く妖怪たちを裏でそそのかす役割を担うことが多い。ただしちょっと抜けたところも目立つので鬼太郎たちにすぐ返り討ちにされてしまい、ぬらりひょんや蛇骨ばばあによく叱られている。おっちょこちょいのあまりクビにされそうになったこともある。ぬらりひょんが天狗ポリスに捕まった際には、一緒に投獄された。



しょうけら 第16話

カードゲームに熱中する少年にとりつき、夜中に学校に呼び出してさまざまなゲームを挑み、寿命を奪っていた妖怪。もともとは夜中に屋根の上を歩き回ったりして住人の眠りを邪魔する妖怪だと言われている。



白鬼髪 第37話

黒鬼髪と対照的に、髪を売った女の悲しみから生まれた存在。人間の女性に取りついて悪さをしていた黒鬼髪を止めるために人間界へやってきていた。鬼太郎によって黒鬼髪とともにひと房の髪に戻され、黒髪神社に奉納された。



白装束 第9話

名前の通り白い装束に身を包み、傘を被った妖怪。吉永という男の前に棺桶を運び、無理矢理その中に入れた上で「犯した罪を償え」と命令した。傘の下の顔は闇が広がっていて、目だけがぼんやりと光っていた。



水虎 第1話

人間をさらって生気を吸おうとしていた水の妖怪。河童にも似た狂暴な妖怪で塚に封印されていたが、子供がその塚を壊してしまったせいで人間界に出現し、悪さを働いていた。元々は中国からきた妖怪だとも言われている。



すっぽん幽霊 第25話

修行僧の格好をした幽霊で、足がなく宙に浮かんでおり、口元はすっぽんのようにすぼめられている。妖怪大運動会では西チームの一員として、輪入道転がしに参加していた。



そろばん坊主 第25話

首からそろばんを下げた妖怪で、木の下でそろばんを弾く音を立てると言われている。妖怪大運動会では西チームの一員として参加し、最終種目の妖怪リレーでアンカーを務めた。



大天狗 第30話

カラス天狗たちの長で、妖怪法廷の裁判長を務めている。目玉おやじとは旧知の仲で飲み友達。天狗ポリスを統率する立場で、閻魔大王とともに地獄と妖怪たちの世界秩序を守る存在である。地獄の鍵の件で鬼太郎が容疑者となった裁判では、鬼太郎のリモコン下駄やチャンチャンコを取り上げ、石積みの罰を科した。なお、本名を赤嵐坊といい、天狗ポリスのエースである黒鴉のことは親代わりとして育ててきた。松明丸追跡の任を黒鴉に与えて妖怪横丁に向かわせたのも大天狗だ。



松明丸 第36話

邪悪な天狗の怨念がこもった火の妖怪で、妖怪横丁の妖気を吸って巨大化し、消えない炎となった。人間界へも向かおうとした松明丸は、蒼坊主や黒鴉と協力した鬼太郎によって倒された。



土ころび 第25話

全身を毛で覆われた丸くて大きな妖怪で、峠を転がって人を追いかける。妖怪大運動会では北チームの一員として参加した。ねずみ男にそそのかされて発電所を襲い、電気を吸収したこともある。



蕾 第45話

古椿が人間の精気を集めるために作ったメイド喫茶で働いていた女の子。その正体は古椿に咲いた花のひとつだったが、「人間を犠牲にしたくない」という思いから、古椿に逆らって鬼太郎を助けた。



つるべ落とし 第15話

木の上などから急に降りてきて人を驚かす妖怪。妖怪横丁の住人のひとりで、雑貨屋を経営している。人間のクレープ屋が妖怪横丁にやってきた時は「ゲゲゲスナック」を発売して客を取り戻そうとし、さらにはねずみ男の助言を受けて鬼太郎クッションをおまけにつけたり、ネコ娘をマスコットガールに起用したりしていた。雑貨屋では目玉おやじを働かせたこともあるが、うまくいかずにすぐ辞めさせることとなった。妖怪大運動会では司会を担当するなど、町内会では大きな存在感を持っている。



つるべ火 第7話

妖怪横丁の入り口を守る火の玉のような妖怪。入り口を色々な場所へ繋ぐ能力を持っており、ネコ娘がバスガイドの仕事で京都に行った時や、地下に封じ込まれた赤エイを救出する時などで活用された。逆に、百々爺が鬼太郎を妖怪裁判にかけた時は、つるべ火が誘拐され横丁の仲間たちが証言できなかったこともある。火の妖怪として雪女が南下してきた時に迎え撃ったり、しょうけらが悪さをしていた時は明かりで照らして鬼太郎を手助けしたりもした。





手長足長 第25話

手の長い「手長」と足の長い「足長」のふたりひと組の妖怪で、常に足長が手長を肩車している。妖怪大運動会では北チームの一員として参加。ふたりひと組で輪入道転がしに出場している。



手の目 第47話

目をきつくつぶった老人の姿をした妖怪で、実は手のひらにある目でものを見ている。人間に強い怨みを持っており、人間の味方をする鬼太郎を百々爺や天邪鬼と一緒になって陥れようとした。



天狗ポリス 第39話



大天狗の元、カラス天狗たちによって作られた警察に似た組織。妖怪の犯罪者を捕らえて閻魔大王の裁判に連行するほか、天狗自身が裁判官の役目を果たす場合もある。白いヘビを手錠代わりに使用し、ヘビのロープで犯罪者を吊り下げたりもする。ぬらりひょん一家や西洋妖怪との戦いでは、鬼太郎と一緒に戦うことも多く、それがぬらりひょん逮捕にも繋がった。なお、カラス天狗には悪人もおり、すべてが天狗ポリスとして法を守っているわけではない。

天井さがり 第9話



ゆうれい列車で人間を驚かしていた妖怪のひとり。その名の通り天井からぶら下がった姿で出現する。びっくりさせるだけで特に危害を加えることはないが、伸ばした舌で人の顔をペロペロと舐めることがある。

百々目鬼 第8話



ぬらりひょんの手下のひとり。全身に目がついた不気味な姿で、何度も盗みを働いた女が妖怪となったもの。盗んだお金が体にはりついて目となった。少女に化けて鬼太郎に近づき、チャンチャンコを奪おうとした。

ドラキュラ三世 第32話



鬼界ヶ島に攻め込んできた西洋妖怪のひとり。コウモリたちを従わせながら、ぬりかべと戦った。まだ若く、妖女ゴーゴンからは「ドラキュラの坊や」と呼ばれ軽くあしらわれる存在でもある。

なまはげ 第25話



妖怪大運動会では北チームのリーダーとして参加。南チームのシーサーとともに選手宣誓を行った。最終種目のリレーでは、北チーム第1走者として走ったが足を滑らせ、がんぎ小僧を巻き込んだ。

ニセ鬼太郎 第22話



鬼太郎を吸い込んだ釜鳴りが、鬼太郎の髪の毛や衣服などを奪って成り代わった姿。人間に粗末にされたことを怨んでおり、オマケのカード目当てで買ったお菓子を捨てる子供たちを釜に吸い込んでいた。

沼御前 第5話



美しい女性の姿をした妖怪で、沼の主だった大蛇が変じたもの。20年前に鬼太郎が倒し、沼は埋め立てられていたが、その上に建てられた撮影所で撮られた映画が20年前を思い起こさせる内容だったため、再び目覚めてしまう。

ぬらりひょん 第4話



鬼太郎と敵対する日本の妖怪たちを束ねる総大将。鬼太郎を憎み、何度となく抹殺計画を実行するが、いつも失敗に終わっている。手下に蛇骨ばばあや朱の盤がいるが、ねずみ男を利用することも多い。片車輪に鬼太郎を襲わせた時、天狗ポリスによって捕らえられて妖怪刑務所に収監されるが、岩のカケラをかじりながらチャンスをうかがい、旧鼠やかまいたちの助けも得て脱走した。鬼太郎が百々爺の罠にかかって裁判にかけられた時は、影ながら助けたりもしている。

ぬりかべ女房と子供 第13話



ぬりかべとほぼ同じ外見をしている。ピンク色をしているのが女房で、サイズが小さくたくさんいるのが子供たち。大百足との戦いでは、ぬりかべと合体して巨大化し、大百足を倒した。ぬりかべの子供たちは他にも、目玉おやじがレスキュー隊を結成した時一緒に消防活動をしたり、人間のクレープ屋が妖怪横丁に店を開いた時、風船で空に浮かんだまま降りられなくなったりしている。アマビエやかわうそたちと仲がよく、横丁内で一緒に遊んでいることが多い。

猫又 第25話



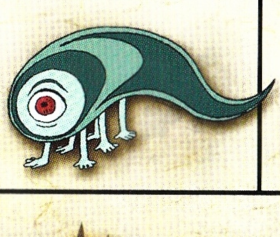
年を経て妖怪になった、人間の大きさほどもあるネコで、尻尾が2つに分かれている。妖怪大運動会では南チームの一員として参加し、最終種目の妖怪リレーで第2走者として走った。

ネネコ 第19話



池の底にある河童の国の住人。人間との対立を主張するシバテンの仲間として、女性ながら相撲大会に参加する。マワシスタイルのネコ娘と対決するが、ガラッパのセクハラで試合は無効となった。

のびあがり 第6話



砂風呂を作るために砂かけ婆が集めた砂とともに、横丁へやってきた妖怪。眠り花の花粉で横丁の住人たちを眠らせ、吸血木に変化させてから生気を吸おうとしていた。空を覆うほど巨大な姿になることもある。

獏 第24話



眠っている人の見る夢を食べると言われている妖怪。象や虎など、さまざまな動物の特徴が混ざった外見をしている。鬼太郎とまくら返しとの戦いの際には、夢もろともまくら返しを食べてしまった。

白山坊　第11話



売れない漫才コンビ「タロウズ」をそそのかし、全日本お笑いグランプリの優勝と、売れっ子コンビになることを条件に魂を渡すよう約束を取りつけた妖怪。「タロウズ」のファンだった目玉おやじが一計を案じてその企みから助け出した。白山坊はもともと長生きして妖怪となったキツネで、着物を身につけている。ずる賢いところがあり、ねずみ男とは気が合うらしい。「タロウズ」を狙ったのもねずみ男にそそのかされたからで、その後もねずみ男と組んで妖怪興行を行ったりしている。

化け蛸　第15話



妖怪横丁の住人のひとりで、マッサージ屋を経営しているタコ型妖怪。少々酒癖が悪く、毛目玉が目玉おやじに成り代わっていた時には、酔っぱらって大暴れした上、足がからまり動けなくなったこともある。

化け狸　第25話



首から太鼓をぶら下げた狸の妖怪。妖怪大運動会では西チームのムードメーカーとして参加。障害物競走とリレーに出場し、障害物競走ではふるそまと座敷童子に抜かれることとなった。

バックベアード　第18話



闇に包まれた巨大な目玉の妖怪で、西洋妖怪の中でも特に強力な力を持ち頂点に君臨している。鬼太郎がドイツを訪れ、目目連に襲われていたところに出現し、目目連を一瞬にして倒した。それは鬼太郎を助けたわけではなく、「近いうちに日本の妖怪を絶滅させに行く」と宣戦布告をするためだった。その後、西洋妖怪たちが日本に攻め込んできた際にも登場しているが、その時もバックベアード自身は戦おうとはしなかった。戦えば、鬼太郎でも命を賭けることになるだろう。

火取魔　第17話



ぬらりひょんの手下として、人間の街から熱エネルギーを奪っていた妖怪。もとは行燈の火を消すくらいの力しか持たなかったが、現代文明の強力なエネルギーを吸うことで鬼太郎に対抗できる力を持った。

ひょうすべ　第25話



おもに田んぼに棲むカッパに似た妖怪で、全身灰色の毛で覆われている。妖怪大運動会では南チームの一員として妖怪リレーの第3走者を務めた。

舟幽霊　第4話



小さな船にとりついて、水のわき出てくるひしゃくで水を注ぎ込み、沈ませてしまう妖怪。一反もめんに水をかけて動きを封じたほか、海座頭の命令で子供をさらったこともある。

フランケン　第32話



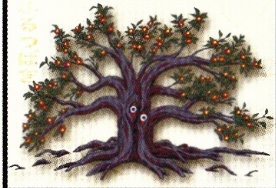
鬼界ヶ島に攻め込んできた西洋妖怪のひとり。顔の半分が鉄板でつぎはぎされた大男で怪力を誇っていたが、子泣き爺との力勝負に敗れてほかの西洋妖怪たちとともに島から退却した。

ふるそま　第25話



夜中に誰もいないはずの森林で、木の裂けるような音を立てる妖怪。妖怪大運動会では南チームの一員として参加。障害物競走で風の神の強風に耐え、1着でゴールインしている。

古椿　第45話



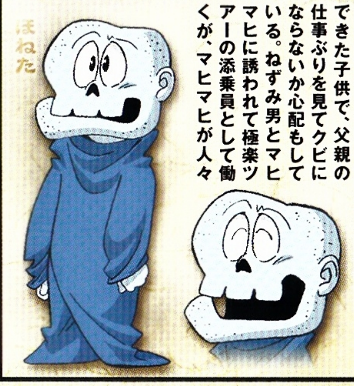
メイド喫茶を作り、男性客を捕まえて精気を吸っていた木の妖怪。働いていたメイドたちはみな椿の花を人間化したものだが、鬼太郎がみずからおとりとなって古椿の場所を突き止め、戦いの末に倒した。

骨女　第41話



「ずっと前からファンだった」と言ってねずみ男へ取り入り、人間の魂を集めさせた女妖怪。それによって舞首を復活させ、世界征服を企んだ。利用するつもりだったねずみ男に、最後には本当に惚れ込んでしまう。

骨太　第35話



死神九九号と青子の息子。貧乏暮らしで苦労している両親に心配をかけまいと、楽しみにしていた町内会のバス旅行を諦めるなどよくできた子供。父親の仕事ぶりを見てクビにならないか心配もしている。ねずみ男とマヒマヒに誘われて極楽ツアーの添乗員として働くが、マヒマヒが人々の魂を集めるのを見て利用されたことに気付き、魂を返そうとする。その事件を通じて父親の優しさを知り、夫を叱りつける母親に、そんなに怒らないで欲しいと訴えた。

舞首　第41話



三つの巨大な首がくっついた妖怪で、それぞれが炎・風・雷を自在に操る力を持っている。骨女とねずみ男が協力して魂を集めて、復活させるも、最終的には鬼太郎によって3つの首同士が仲違いをして自滅してしまう。

まくら返し
第24話

眠っている子供たちや鬼太郎の夢に現れ、夢そのものを壊そうとした妖怪。夢の中では鬼太郎の攻撃も通用しないほど強かったが、鬼太郎の機転によって夢もろとも獏に食べられてしまった。



魔女
第32話

鬼界ヶ島に攻め込んできた西洋妖怪のひとり。島を脱出して鬼太郎に助けを求めるカイを追っていた。魔女見習いのザンビアは孫娘。鬼太郎たちに捕まったところを彼女に助けられたこともある。



魔女ザンビア
第32話

鬼界ヶ島に攻め込んできた、魔女の見習い。鬼太郎たちに捕まった魔女の祖母に代わり、西洋妖怪たちの主要メンバーとして激しい戦いを繰り広げた。その後も西洋妖怪の先兵として鬼太郎たちになにかとちょっかいを出してくるようになり、妖女ゴーゴンが人間界に潜入した際には、バックベアードの伝令役として命令を伝えていた。高飛車な性格で鬼太郎たちを見下す傾向が強く、特にネコ娘に対してはライバル意識を持っているようだ。



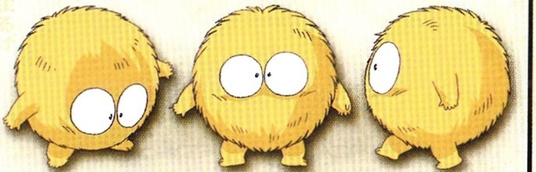
マヒマヒ
第35話

ハワイからやってきた死神。顔の形は死神百号にも似ているが、髪の毛に長い髭、アロハシャツにレイをかけた派手な服装でずいぶん印象が異なる。ねずみ男と結託して人を集め、魂を荒稼ぎしようとしていた。



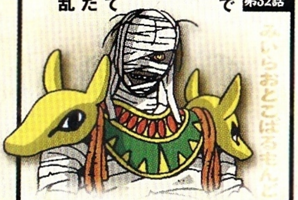
丸毛
第15話

妖怪横丁のいろいろな家で空き巣を働いていた小さな妖怪。丸っこい毛玉に手足が生えたような姿で、毛の下がどのような顔かはわかっていないが、頭の上部に口があることは確認されている。普段は貯金箱に化けており、上の口からお金を入れることができる。お金が好きなので、誰かが取ろうとすると噛みついてくることもある。しかし本来は悪いことをする妖怪ではなく、空き巣を働いていた時は、逆柱に子供を人質に取られてやむをえず行っていたのだった。



ミイラ男バルモンド
第32話

鬼界ヶ島に攻め込んできた西洋妖怪のひとり。エジプトの妖怪王家の末裔で、ミイラ軍団を指揮している。地獄の鍵を執拗に狙っていたが、鬼太郎の放った地獄の究極奥義「獄炎乱舞」で倒された。



ミウ
第32話

日本の南端にある鬼界ヶ島に暮らす妖怪アマミ一族のひとり。鬼界ヶ島に西洋妖怪が攻め込んできた際、弟のカイを逃がして鬼太郎のところに向かわせた。鬼界ヶ島は12年前にも西洋妖怪の襲撃を受けており、その時も鬼太郎たちが迎え撃ったが、ミウとカイの母親が犠牲になっている。触手とエラを持っているが、服の下に隠せばほとんど人間と変わらない姿になる。また、アマミ一族の特徴として、触れた者と意識を通わせる能力も持っている。



見越し入道
第38話

住んでいる山に人間が道路を建設したことへ腹を立てていた鬼で、頭に血が上りやすい性格。ねずみ男が見つけた赤ん坊のことは、怒りですっかり忘れていたという。ねずみ男には親失格と言われ、反省して赤ん坊を連れ帰った。



見越し入道の赤ん坊
第38話

ゴミ箱をあさっていたねずみ男が見つけた、怪力を持つ赤ん坊。妖怪横丁の住人にはまったくなつかなかったが、ねずみ男にだけは心を開いた。自分より大きなものを見ると、もっと大きくなって威嚇する性質がある。



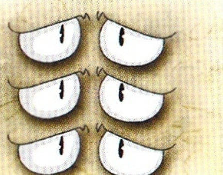
メドチ
第19話

池の底にある河童の国の住人。シバテンやネネコの仲間として相撲に参加するが、子供のような外見の通り気が弱く、ネコ娘に怯えて逃げ出してしまう。青森県に伝わる河童の一種が池に移り住んできたのかもしれない。



目目連
第18話

無数の目が連なっている妖怪で、人や妖怪だけでなく建物などにも取りつくことができる。大富豪の招待でドイツの古城に行った鬼太郎たちを突然襲った。影のあるところしか移動できない弱点がある。



百々爺
第47話

「鬼太郎が"妖怪の秘湯"の場所を人間たちに教えた」と訴えた妖怪。ねずみ男や人間のカメラマンも利用した上に、証拠写真もねつ造して鬼太郎を追いつめた。天邪鬼、手の目も百々爺に協力して鬼太郎が有罪だと証言。さらには鬼太郎に倒されたまくら返しやおどろおどろ、黒坊主の魂を呼び出して追いつめるが、ねずみ男に裏切られて悪事が暴かれた。「鼻もんもん」という幻術を使うことができ、ねつ造された写真に写っていた鬼太郎と人間もその幻術で作っていた。



モンロー
第43話

吸血鬼ピーといつも一緒にいる女妖怪。金髪美女の姿をしており、ミステリートレインの乗客をひとりずつ誘惑して精気を吸っていた。客室乗務員や和服のエプロン女将、喪服姿など様々な姿に変装して行動していた。



夜行さん
第7話

一つ目にサンバイザーがトレードマークの、妖怪横丁で「夜行研究所」を構える妖怪情報通。研究所には日本妖怪に関する最新の情報が集まるため、鬼太郎たちもよく相談に訪れる。また妖怪横丁の中では珍しくテレビがあるため、人間界で放送されている番組を見に集まってくる妖怪も多い。ぬらりひょんが片車輪を利用して鬼太郎の命を狙った時は、夜行さんが全国の妖怪に助けを求めたことで、カラス天狗や雪女郎、カッパたちが助けに来た。



夜叉
第3話

人間の嫉妬心や怨みなどから生まれる妖怪で、倒してもまた別の夜叉が生まれてきてしまい、完全に消滅させることができない。天才美少女バイオリニスト月野小夜子にとりつき、鬼太郎を窮地に追い込んだ。



山爺
第25話

大きな頭に一つ目と曲がった大口を持ち、一本足で歩く妖怪。大きな口からは、石を動かすほどの声を出すことができる。妖怪大運動会では西チームの一員として参加し、リレーの第3走者として走った。



雪女
第7話

雪深い北国に住む美しい女の姿をした妖怪。人間と恋に落ちた雪女の姉は、その罪により雪入道に殺された。そのため、人間とともに暮らす妖怪たち全体を恨み、座敷童子を氷漬けにした上で南に下ってきた。



雪女郎
第30話

顔に傷を持つ長身の美女で、いつもその周りに雪女たちを従わせている。雪入道に姉を殺された雪女もその取り巻きのひとり。鬼太郎が片車輪に襲われた時、カラス天狗やカッパたちとともに戦い、助けてくれた。



雪入道
第7話

人間と暮らすことを選んだ雪女の姉を処刑した妖怪。雪女より強力な吹雪を操る。一つ目一本足の巨大な姿をしており、雪女を倒した鬼太郎ですら命を賭けねばならぬほど、窮地に追い込む強さを持っていた。



妖怪樹
第25話

筒状に曲がった枝の奥に赤い目のある樹木型妖怪で、吸血樹とも呼ばれる。妖怪大運動会で、障害物競走における障害物のひとつとして登場。一反もめんをその枝でがんじがらめにした。



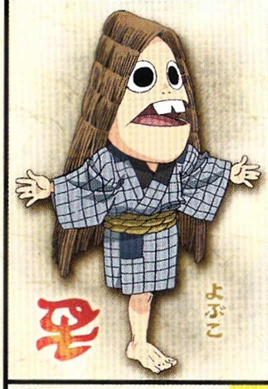
妖女ゴーゴン
第46話

以前から日本に潜入していた西洋妖怪で、グルメビルの美女オーナーとして暮らしていた。その目で見つめた者を石にしてしまう特殊能力を持ち、正体を現すと緑色の髪がすべてヘビに変わる。



呼子
第6話

大声で呼ぶと声が返ってくる「やまびこ」を起こす妖怪で、妖怪横丁の住人のひとり。遠くにいる者を呼び寄せる力を持っており、さまざまな場面で妖怪たちの力になってくれる。特に、方向音痴で迷子になりやすい蒼坊主は、何度も呼子に助けられている。家賃を払うためにねずみ男の仕事を手伝った際には、あの世に向かっていた七人ミサキの親分を呼び戻し、七人ミサキの一員にされかかっていたねずみ男を救った。その活躍に加えて日頃の行いも良かったので、妖怪長屋の家賃をまけてもらえることになった。



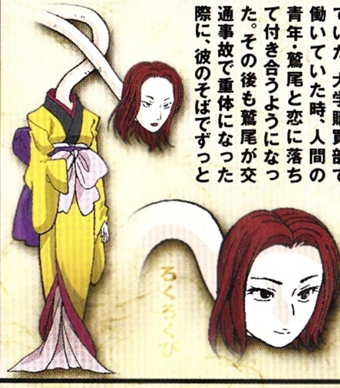
雷獣
第10話

白神山に住む獣型の妖怪で、雷とともに現れて開発現場を襲った。本来人を襲うような性格ではないが、山を切り開こうとした人間がご神体である「かみなり岩」を動かしたことに怒ったのではないかと言われている。



ろくろ首
第6話

妖怪横丁の長屋に住む妖怪のひとり。恥ずかしがり屋で人前に出たがらないが、家賃を払うため、人間界でアルバイトをしていた。大学購買部で働いていた時、人間の青年・鷲尾と恋に落ちて付き合うようになった。その後も鷲尾が交通事故で重体になった際に、彼のそばでずっとその様子を見守っており、交際は順調に続いているようだ。ネコ娘や砂かけ婆、お歯黒べったりと一緒にプールに遊びに行ったりするなど、人間界にもとけ込めているようだ。



輪入道
第7話

雪女が暴れた時には、火を操る妖怪として迎え撃った。妖怪大運動会では選手ではなく「輪入道転がし」という競技で転がされる役で登場。燃えさかる輪入道を転がすという競技で、南チームのキジムナーが勝利した。



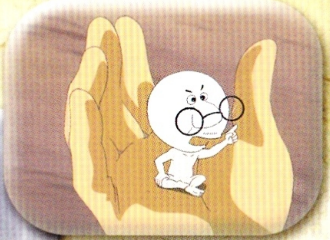
鬼太郎 第5シリーズこぼれ話 2007TVシリーズ編

作品とタイアップした桃屋のCMと、本シリーズで見せたネコ娘の新たな魅力についてもここで触れておきたい。

笑撃!? 桃屋「ごはんですよ!」CM

「ごはんですよ!」といえば、大きな鼻に黒縁メガネの、故三木のり平氏がモデルのキャラクターが印象的だ。タイアップCMでは、鬼太郎とその仲間たちがのり平に変身するという、インパクト大なCMが放映された。桃屋が取り組んでいる食育啓蒙活動と連動したCMとなっており、キャッチコピーも「外食ばかりじゃ あきたろう」と、「ごはんですよ!」のCMらしくシャレが効いていた。

鬼太郎&目玉おやじ編



目玉おやじがのり平になったかと思えば…



気づくと鬼太郎もいつの間にかのり平に!

鬼太郎&ネコ娘編



ネコ娘に「あんた顔が変よ!」と指摘された鬼太郎…



しかし、そういうネコ娘の顔ものり平そっくりに!

新たなファンの開拓に貢献したネコ娘

2007TVシリーズでは、すらりとした等身と現代的な可愛らしさで新たな魅力を見せてくれたネコ娘。鬼太郎を慕う健気な姿や、さまざまなアルバイトをしたり、水着でバカンスを楽しんだりと、人間界でも自然体で生きる彼女の存在が、新たな鬼太郎ファンの開拓に寄与したのは、疑いのないところだろう。



第29話

第20話

第2話

第23話



「メガミマガジン」(学研パブリッシング刊)'08年2月号に掲載されたピンナップ。原画は上野ケン



ネコ娘の魅力満載のDVD「ゲゲゲの鬼太郎セレクション ニャーニャーのネコ娘」好評発売中 5,040円(税込)発売・販売:ハピネット

ゲゲゲ 出張 かわら版

2010年2月19日

出張!! 蔵出し初期設定集・其の零!?

BOX1の発売を祝して、今回はまさに蔵出しですヨ！

まずは、今回も第3・第4シリーズに引き続き、鬼太郎の宿敵として登場したぬらりひょん。

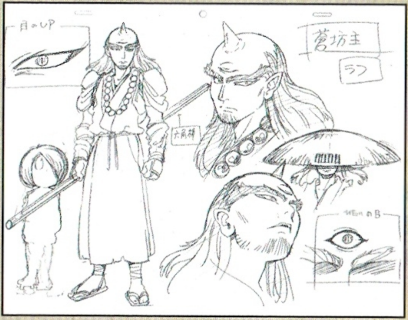
決定稿の羽織姿もキマってますが、このマント姿もなかなかです。そして眉毛が、まだ繋がってないんです！ 確か…眉を繋げたのは、貝澤さんだったはず…。

続いて、第5シリーズオリジナルキャラでありながら、すっかり大人気の蒼兄さんこと蒼坊主。

ひたすらカッコいいこのラフは、シリーズ構成の三条さんが描かれたラフを元にしたもの。ここから、お馴染の愛嬌ある蒼兄さんへと修正されたのですが、その変更には個人的に当時ちょっぴり残念な気持ちが強かったんです。が、後々になって「この蒼兄さんでよかった」って思えたんですよ。ただカッコいいだけじゃないところが、蒼兄さんの大きな魅力なのでしょうね。極度の方向音痴なトコロとか（笑）。

ちなみに、「あの顔でも、鬼太郎世界では超イケメンに見えている」らしいです。ということは、一つ橋さんも…。それは、また次回のお話。

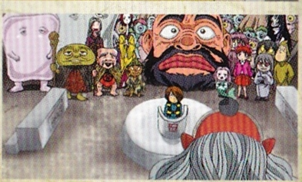




「古今東西妖怪大図鑑」のページで紹介した妖怪以外にも、顔出し程度だが、以下の妖怪が2007 TVシリーズに登場している。ほとんどの妖怪が、第25話「妖怪大運動会」、または第47話「妖怪大裁判」での登場だ。50音順に紹介させて頂くので、ぜひあなたの目で彼らの姿を確認して欲しい。

あかなめ／あしまがり／小豆はかり／操り娘／磯女／姥が火／大病／おひあがり／餓鬼／河童／髪こけし／倉ぼっこ／小鬼／五仏／さけよい／七身／白坊主／スネコスリ／セコ／タンコロリン／力吸い／提灯小僧／天火／ぬっぺほふ／濡れ女／化けの子／ヒザマ／ビラビラ／みのむし火／弥魔衣／山鬼


第25話


第47話

ゲゲゲの鬼太郎スペシャル座談会 PART1

大好評を博し、ひとまずのピリオドが打たれた『ゲゲゲの鬼太郎』第5シリーズ。作品に魂を吹き込んだ4人のクリエイターに、本作誕生の経緯から、高山みなみ監督渾身の特典映像に至るまで、思う存分に語り合って頂いた。

高山みなみ（鬼太郎役）
櫻田博之（企画／プロデューサー）
三条 陸（シリーズ構成／脚本）
貝澤幸男（シリーズディレクター／演出）

高山みなみ



たかやま・みなみ 東京都出身。'87年年声優デビュー。『ミスター味っ子』の主人公・味吉陽一役で初主演を果たす。'89年には映画『魔女の宅急便』の主人公・キキ役に大抜擢され、声優としての地位を確立。『忍たま乱太郎』（'93年～）の乱太郎役、『名探偵コナン』（'96年～）の江戸川コナン役は共に15年以上にも及ぶハマり役となった。

●第5シリーズ『鬼太郎』誕生夜話

――第5シリーズでは、『鬼太郎』の過去の歴史を踏まえた上で、新たな『鬼太郎』を目指されたと思いますが、企画の経緯をお話し頂けますか？

櫻田　東映アニメーションにとって『鬼太郎』は、ほぼ10年に1回制作してきた作品です。第4シリーズが終わった時点で、いつか新シリーズを……という話は断続的にあったようです。そしてさまざまな条件がようやく整ったというわけです。

今回の企画が動き出した当初、フジテレビのプロデューサーさんとの打ち合わせの際、『鬼太郎』はファンも多く知名度も高い作品だが、まず第一に観て欲しいのは、まだ鬼太郎を知らない、かつての鬼太郎を観たこともないはずの、今の子供たちだ、というお話がでました。そのために、いろいろと工夫しよう、と。それを一緒に実現できるのは、僕にとっては貝澤さんと三条さんでした。

当時僕と三条陸さんは、アニメ『祝！（ハピ☆ラキ）ビックリマン』に関わっていました。僕としては『鬼太郎』をやるとなったとき、貝澤さん、三条さんはすぐに頭に浮かびましたね。

●『ビックリマン』から『鬼太郎』へ――

三条　それまで櫻田さんとは『ガイキング』、『祝！（ハピ☆ラキ）ビックリマン』でご一緒しましたが、かなりマイナーな時間帯の放映で、みんな頑張って一生懸命作りましたが、なかなか知名度は上がりませんでした。そういう意味で『鬼太郎』は、「僕らと櫻田さんは力があるチームですよ」ということを示す良い舞台になるのではと思い、一緒に『ビックリマン』をやってくださった長谷川圭一さんとふたりで参加しました。『ビックリマン』は、僕がクライマックスをやらざるを得ませんでしたので、逆に『鬼太郎』は、最初、長谷川さんがメインで関わってくださいました。途中から僕も合流し、お互いにリーダーシップを取りながら、ふたりで進めました。

櫻田　要は、長谷川さん、三条さん、貝澤さん、そして僕とで相談しながら『鬼太郎』のシリーズ構成をやっていたんです。2008シリーズでは三条さんおひとりになりましたが、それは四十七士の話と劇場版（『ゲゲゲの鬼太郎 日本爆裂!!』［'08年］）との連動に関連して、シリーズ構成をより計画的にやる必要がでてきたためです。

――今回、ネコ娘がどういう所でアルバイトをして、どんなコスプレを見せてくれるかも各話の見所になりましたね？ あれはどういった経緯で？

貝澤　僕はネコ娘がああなるとは思ってもみなかったし（笑）、ネコ娘にコスプレをさせようと狙ってはいませんでした。今回、鬼太郎が非常にのんびりしていて、自ら情報を得ようと動くわけではありません。となると必要なのは、鬼太郎の目や耳となる存在で、それが人間界に通じているネコ娘とねずみ男でした。ねずみ男はどちらかというとアンダーグラウンドな情報を人間社会から得て来ますが、ネコ娘はもっと一般的な部分で情報を得て、鬼太郎の元に駆け込んで来るという形にしたかったんです。「では、ネコ娘は人間界で何をしているんだ？」と考えた時に、アルバイトというアイデアが出たんです。第2話で、そのアルバイトの内容が携帯電話販売の女の子（キャンペーンガール）になったんですね。2カットぐらいしか出なかったと思うんですが、非常に話題になって（笑）。それを聞いて「なら自分もやりたい」というスタッフも多かったんです。三条さんが一番やりたがったのかもしれませんが（笑）。

三条　（苦笑）。

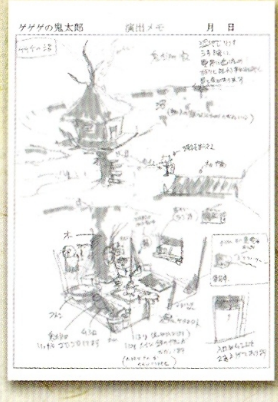
●4代目鬼太郎襲名！

櫻田　鬼太郎役を高山みなみさんにという考えも、僕の中では早くからあって、大規模なオーディション

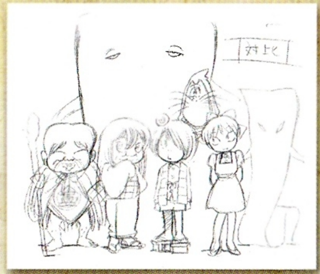
櫻田博之



さくらだ・ひろゆき：95年、東映動画（現・東映アニメーション）に入社。代表作は他に『まもって守護月天！』（'98年）、『デジモンアドベンチャー』（'99年）、『ののちゃん』（'01年）、『金色のガッシュベル!!』（'04年）、『ガイキングLEGEND OF DAIKU-MARYU』（'05年）、『祝！（ハピ☆ラキ）ビックリマン』（'06年）など



貝澤幸男のスケッチより、鬼太郎の家の設定原案



上野ケンによるキャラクター対比表のスケッチ。ネコ娘は、ここからさらに現代的にアレンジされた

をする気はあまりなかったんですよ。『鬼太郎』という歴史を背負いつつ、なおかつ元気に演じて下さる方は、なかなかいらっしゃらないと思います（笑）。

高山　（笑）。

――高山さんのオーディション時のセリフはなんだったんですか？

高山　「やぁ、人間のみなさん」というセリフと、戦闘シーンですね。普通に喋っているセリフもありました。貝澤さんから、緩い場面と戦闘してピリッと緊張している場面の二面性が欲しいというお話を頂いたんです。実は、私は戦闘シーンをあまり演じたことがなかったんです。だから逆に楽しかったですよ（笑）。

貝澤　鬼太郎って本当に難しいんですよね。これまで4シリーズやりましたが、正義感溢れるヒーローでもないし、何も分かっていない少年でもないですよね。鬼太郎自身が、何か揺るぎないのんびりさというか、確固たるものを持っている必要があるんですよ。ひとたび何かが起こると、ヒーローとしての姿を見せるというか。

高山　オン・オフのハッキリしている、スイッチがある感じで、すごく演じやすいんですよ。

櫻田　ネコ娘だけは、今回かなり現代風に変わりましたので、かなりオーディションを行いました。一方で、ねずみ男は本当に少数の方のオーディションでしたし、一反もめんや子泣き爺、砂かけ婆といった仲間たちは、オーディションなしで、「もう八奈見（乗児）さんで決まり！」というような感じでしたね（笑）。

――高山さんが最初に『鬼太郎』のオーディションのお話をお聞きになった時の感想はいかがでしたか？

高山　最初はちょっと驚きました。「エエッ!? 私のところにきていいんですか？」と。実は私、恐いものがダメで、『鬼太郎』も全然観たことがなかったんですよ。たまたまテレビに映っているのを、部屋の隅から片目で観ていたくらいで（笑）。もちろん今はもう大丈夫なんですけど。ですから、それまでの『鬼太郎』を知らないということが逆に強味だったと思います。まず、どういう世界観なのかを確かめるために、原作の文庫本を片っ端から読みました。最初は、「恐い！」と思いながら恐る恐る読んでいました（笑）。慣れてからはもう毎日のように読んで読んで読みまくりました。キャラクターは、「なんだかすごく現代っ子っぽい！」という印象を受けました。顔も等身も、イメージしていた原作の鬼太郎と違いましたし、これまでのアニメの『鬼太郎』とも全然違ってましたしね。鬼太郎のオーディションを受ける少し前に、別のオーディションをいくつか受けていたんですが、そこで「素朴感がないんだよね。もっと素朴にしてください」とか「ちょっと都会的過ぎるんだよね」とさんざんNGをもらって、落ち込んでいたんです。そんな時だったので、素朴の極みというか、素朴の塊のような鬼太郎を、私が演じられるのかという不安はありました。




貝澤幸男による、人間の街のスケッチ


同じく貝澤幸男のスケッチから、妖怪横丁の設定原案。これは横丁の入り口付近

三条陸



さんじょう・りく。大分県出身。明治大学卒業後、雑誌の編集者・記者として活動。'86年、OVA『装鬼兵MDガイスト』で脚本家デビュー。その後、『週刊少年ジャンプ』（集英社）誌上『DRAGON QUEST-ダイの大冒険-』（'84年）の原作を手掛け、以後暫くは漫画原作者として活躍。'05年、『ガイキング LEGEND OF DAIKU-MARYU』で脚本家としての活動も本格的に再開。最新作は『仮面ライダーW』など。瑳川竜名義の作品もある。

でもこれをクリアできたら、自信にも繋がると思い、精一杯頑張ったんです。

だけど、その頃おかしなことがあったんですよ。オーディションの結果待ちをしている最中に、別の妖怪もののアニメーションのアフレコ現場にいたら、ゲストでマコ（野沢雅子）さんと松岡洋子さんがいらっしゃったんです！　さらに、戸田恵子さんは別のスタジオで『アンパンマン』を録っていたんですよ。妖怪が妖怪を呼んだというか（笑）。神様が私に「心の準備をしろ」って言ってるのかな、と思いましたよ（笑）。これが私の妖怪世界への入り口だったのかもしれません。

一同　（笑）。

櫻田　目玉おやじに関しては、フジテレビのプロデューサーさんから「目玉おやじは『鬼太郎』という作品の最大の萌えキャラだから、おやじをとにかくフィーチャーして欲しい」と言われました。「1話に1回は目玉おやじに何かやらせて欲しい」というのがお題でした（笑）。三条さんにも相談したんですよね。

高山　すごくよくわかる！　まさに「萌え」ですよね（笑）。

三条　僕が『鬼太郎』に関わり始めて最初に考えたのは、この作品を皆さんどのくらいご存じなのか、ということでした。10年ごとに作られていますし、『鬼太郎』という作品をご存じない方はいないだろうと思います。でも、鬼太郎自身のことを、どれだけご存じなのだろうという疑問もありました。まず鬼太郎は人間ではなく、幽霊族という種族の妖怪少年です。さらに鬼太郎はいわゆる妖怪バスターではありませんし、登場する妖怪の側にも討伐される気などありません。こういったことを『鬼太郎』を知らない子供に伝えなければいけないと考えたんです。そこで、まず鬼太郎は人間ではないと端的にアピールできる方法はないかと、貝澤さん、櫻田さんに相談しました。そこで思いついたのが、最初に「やぁ、人間のみなさん」と、ナレーションをつける方法でした。これによって、鬼太郎は人間ではないということが分かりますから。さらに、これまでの『鬼太郎』シリーズでは、高度成長期以降、公害や科学文明に妖怪が苦しめられるエピソードが増えてきましたが、これを1度リセットしようと考えたんです。どうすればそのムードやキャラクター性を表現できるか、いろいろとフォーマットやストーリーを考えていった憶えがありますね。



――妖怪横丁は貝澤さんからアイデアが出たということですが、細かい設定の作り込みは皆さんで決めていかれたのですか？

貝澤　結局横丁を作ったものの、位置関係とかが分からないので、オープニングで鬼太郎の家から森を抜けて、妖怪横丁があって……と、図解しているんですよね。

高山　町内の地図が欲しいです！（笑）

三条　でもそのお陰で、第5シリーズでは、妖怪世界の位置関係がすごく





いずれも貝澤幸男のスケッチから。妖怪横丁の全景がわかる。様々な設定が細かに書き込まれている

貝澤幸男



かいざわ・ゆきお：長野県出身。現在、『マリー&ガリー』を演出中。※詳細なプロフィールはP25をご覧ください。

ハッキリしましたね。そもそも妖怪長屋や横丁、鬼太郎の家が現実社会にあるのか、あるとすればどこなのかが分かりませんでした。それが今回、隠れ里にあることがはっきりした訳です。そこに人間がアクセスするには、例えばポストに手紙を出したり、横丁の燈籠で迷い込んだりといった方法でしか行けないよ、ということです。ですから「地獄流し」（第34話「妖怪横丁の地獄流し」）みたいな話でも、地獄へ行くには普通に横丁を通って辿り着くことがルールとして決まっているから、話の流れや位置関係がつかみ易くなったんですよね（笑）。

――シリーズディレクターとしてそうした設定をつくる作業に関わられた一方で、貝澤さんは必ずしも設定の重要な話ではなく、ある特定のテーマやキャラクターをじっくり描く回を意図的に担当されているようですが、これは何か…。

貝澤 あれは押し付けられたと言いますか（笑）。

櫻田 （笑）。

貝澤 シナリオを構成していく時に「これはちょっと大変な話になるな？」とか、シナリオ打ち合わせにしっかり出ていないと分からないような話が出来上がることがあるんです。それを最終的に請け負う様な形になりまして（笑）。

『鬼太郎』に対する思い入れは、各演出さん・ライターさんとも強いので、「こういう作品があるなら、これは自分がやりたいからちょうだい」ということが結構多かったんですよ。そういってみんな「やるやる！」と言い出して、なかなかこちらに順番が回ってこない（笑）。そうすると、後はもう大変な話しか残っていないんです。

●巨匠・高山みなみ監督誕生!?

高山 第5シリーズは中断していますけど、気持ちは萎えていないですもんね！ 今すぐにでも再開できますよ！

櫻田 特典映像も今撮っていますしね。

高山 特典映像ね（笑）。

貝澤 撮影を見せて頂いたんですが、高山さんがすごくかっこいいんですよ。ここはこういう風に撮って、こういう風にやってと、パパパッと指示を出されるんです。「うわぁすごい！」と思いましたよ（笑）。自分はもう演出をやる出番なんか絶対ないなと思いました。次はもう演出できないんじゃないかな（笑）。

高山 あれはもう役者さん任せのところが殆どですから。一応台本は書いてくるじゃないですか。でも、ねずみ男（高木渉）とかかわうそ（丸山優子）なんか、台本通りに演じてくれないんですよ（笑）。でも、それが逆に良い味になっています。そして、その場にいる人たちと「ここはこうしたほうがいいんじゃないの？」とワイワイやりながら撮影しています。京極（夏彦）さん渾身のCG映像もありますし、そこも見どころですね。

（2009年 12月某日 早稲田・喫茶ぷらんたん）



2007 TVシリーズ 各話紹介

第1話「妖怪の棲む街」

脚本：長谷川圭一　演出：貝澤幸男　作画監督：信実節子　美術監督：吉田智子

子供たちが沼の塚を壊したことで、妖怪・水虎が目覚めた。それを知った鬼太郎は、水虎の再封印に乗り出す。

第2話「ビビビ!! ねずみ男！」

脚本：三条陸　演出：角銅博之　作画監督：藪本陽輔　美術監督：清水哲弘

ひょんなことから人間社会で職を得たねずみ男。だが会社が建っている土地には、がしゃどくろが宿っていて…!?

第3話「妖しき旋律！ 夜叉」

脚本：長谷川圭一　演出：西沢信孝　作画監督：伊藤智子　美術監督：白井走

街で連続仮死事件発生！ ネコ娘は被害者から人間の負の感情より生まれる妖怪・夜叉の匂いを感じとったのだが…!?

第4話「男！ 一反もめん」

脚本：三条陸　演出：土田豊　作画監督：仲條久美　美術監督：常盤庄司

入院している母親のお見舞いに行った帰り、綾は一反もめんと出会う。次第にうち解けていくふたりに海座頭の影が迫る。

第5話「呪われた映画」

脚本：長谷川圭一　演出：畑野森生　作画監督：八島善孝　美術監督：清水哲弘

三度目のリメイクが決定した映画『クメール遺跡の亡霊』。実は前回のリメイク撮影時に、ある事件が起きていた。

第6話「大パニック！ 妖怪横丁」

脚本：吉田玲子　演出：門田英彦　作画監督：出口としお　美術監督：白井走

砂かけ婆は、家賃の代わりとして妖怪長屋の住人たちに砂取りを手伝わせたが、取った砂の中にのびあがりがいて…!?

第7話「燃えろ！ 目玉おやじ」

脚本：長谷川圭一　演出：中尾幸彦　作画監督：清山滋崇　美術監督：清水まこと

人間と仲良くする妖怪を、雪女が次々と襲い始めた。鬼太郎たちは、次に標的となったネコ娘を囮にすることにしたが…!?

第8話「宿敵！ ぬらりひょん」

脚本：三条陸　絵コンテ：入好さとる　演出：立仙裕俊　作画監督：信実節子　美術監督：清水哲弘

ある日、鬼太郎は女子高生・ひとみをビルの崩壊から助けた。それが、ぬらりひょんの企む計画の一端だとは知らずに…。

第9話「ゆうれい電車 あの世行き」

脚本：長谷川圭一　演出：角銅博之　作画監督：藪本陽輔　美術監督：白井走

人の痛みを知らないサラリーマン・吉永。夜も更けた頃、彼は後輩の木下と共に不思議な臨時電車に乗ったのだが…。

第10話「荒ぶる神！ 雷獣」

脚本：長谷川圭一　演出：西沢信孝　作画監督：伊藤智子　美術監督：常盤庄司

白神山のいかずち岩は、その昔雷獣を封じたところ。その岩が工事で移動させられたせいで、雷獣が目覚めてしまい…!?

第11話「おばけ漫才」

脚本：吉田玲子　絵コンテ：八島善孝　演出：中尾幸彦　作画監督：八島善孝　美術監督：清水哲弘

売れないお笑い芸人・タロウズが突然超売れっ子になった。その成功の裏には、あることを望んだ白山坊の力があって…!?

第12話「霊界からの着信音」

脚本：長谷川圭一　演出：勝間田具治　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：白井走

中学生の千草は父親と2人暮らし。ある日を境に父親へ奇妙な電話がかかるようになり、千草は鬼太郎に助けを求める。

第13話「奮闘！ ぬりかべ用心棒」

脚本：三条陸　演出：畑野森生　作画監督：市川慶一　美術監督：北村芳子

夢の我が家を建てるため、謎の妖怪退治へと乗り出すぬりかべ。だが戦いの最中に大百足の毒を受けてしまい…!?

第14話「鬼太郎死す!? 牛鬼復活」

脚本：長谷川圭一　演出：角銅博之　作画監督：大河内忍　美術監督：清水哲弘

ねずみ男によって復活した牛鬼は、島の住民を次々と襲い始めた。それを知った鬼太郎は、問題の島へと向かうが…!?

第15話「働く！ 目玉おやじ」

脚本：吉田玲子　演出：織本まきこ　作画監督：出口としお　美術監督：白井走

鬼太郎に自転車を贈ろうと、目玉おやじは内緒でお金を稼ぐことにする。だが、どのお店で働いてもうまく行かず…!?

第16話「妖怪はゲームの達人?!」

脚本：三条陸　絵コンテ：入好さとる　演出：立仙裕俊　作画監督：清山滋崇　美術監督：常盤庄司

学校でカードゲームが大流行。ハマった卓也は、ある晩謎の声に勝負を挑まれ、見事勝利したのだが…!?

第17話「さすらいの蒼坊主」

脚本：三条陸　演出：土田豊　作画監督：信実節子　美術監督：清水哲弘

ひどい方向音痴の蒼坊主は、久しぶりに妖怪横丁へ辿りついた。彼は鬼太郎と目玉おやじに、ある秘宝を渡して…!?

第18話「古城に光る黒い眼」

脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：中尾幸彦　作画監督：八島善孝　美術監督：白井走

城で怪現象が続くため、アリアは鬼太郎たちをドイツへ呼んだ。だが彼女は、なぜか鬼太郎を城から突き落とし…!?

第19話「河童池の相撲大会」

脚本：長谷川圭一　演出：貝澤幸男　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：北村芳子

突然失踪した担任の先生を慕う里見は、先生との思い出の場所である池を訪れた。その時、謎の影が池へ飛び込んで…!?

第20話「闇からの声！ 幽霊スポット」

脚本：長谷川圭一　演出：角銅博之　作画監督：伊藤智子　美術監督：清水哲弘

ある本に書かれた場所で幽霊が出るという噂があった。鬼太郎は、幽霊スポットに現れる妖怪はうわんだと推測するが…!?

第21話「茴ったけ？ 妖怪恋物語」

脚本：長谷川圭一　演出：勝間田具治　作画監督：市川慶一　美術監督：白井走

ろくろ首は、家賃を払うために大学の購買部で働くことに。彼女はそこで出会った青年に恋をしてしまうが…。

第22話「ニセ鬼太郎現る!!」

脚本：吉田玲子　演出：西沢信孝　作画監督：仲條久美　美術監督：常盤庄司

新品の茶碗が割れてしまい、捨てに行った鬼太郎と目玉おやじ。そこで見つけた手頃な釜が、実は妖怪・釜鳴りで…!?

第23話「美食家!? さざえ鬼」

脚本：三条陸　演出：深澤敏則　作画監督：出口としお　美術監督：西山正矩

ネコ娘は鬼太郎をプールへ誘ったが、断られてしまう。仕方なくろくろ首たちと行った彼女は、妙な妖怪と出会い…。

第24話「夢の中の決闘！ 枕返し」

脚本：長谷川圭一　絵コンテ：入好さとる　演出：立仙裕俊　作画監督：大谷房代　美術監督：清水哲弘

特製眠り砂で寝入った鬼太郎は、夢の中で夢を壊す妖怪に遭遇。その不思議な内容に鬼太郎は飛び起きるのだったが…!?

第25話「妖怪大運動会」

脚本：吉田玲子　演出：織本まきこ　作画監督：八島善孝　美術監督：白井走

全国の妖怪が4つのチームに分かれて競う大運動会。アカマタ率いる常勝南チームに鬼太郎たち東チームは勝てるのか!!

第26話「妖怪アイドル!? アマビエ」

脚本：三条 陸　演出：角銅博之　作画監督：信実節子　美術監督：清水まこと

蛇骨ばばあが放った矢から鬼太郎を助けた砂かけ婆は、肩に傷を負う。そんな中、妖怪横丁には妖怪・アマビエが現れ…!?

第27話「地獄の掟！ 走れねずみ男」
脚本：長谷川圭一　演出：貝澤幸男　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：西山正矩

夜見の国の入口をふさぐ霊石を、ねずみ男が引っこ抜いた。五官王はその罰として彼の魂を無間地獄へ落とすと宣言し…!?

第28話「鬼太郎恐竜 現る！」
脚本：吉田玲子　演出：門田英彦　作画監督：藪本陽輔　美術監督：清水哲弘

行き倒れていた毛羽毛現を助けた目玉おやじ。2人は意気投合するが、毛羽毛現の強い信念が、思わぬ事件を引き起こす！

第29話「ネコ娘の妖怪バスツアー」
脚本：三条陸　演出：畑野森生　作画監督：伊藤智子　美術監督：白井走

ネコ娘は、バスガイドとして小学校の修学旅行に同行。しかし古都を巡るなかで、子供たちが狂骨を目覚めさせてしまう。

第30話「鬼太郎 抹殺作戦」
脚本：長谷川圭一　演出：深澤敏則　作画監督：仲條久美　美術監督：常盤庄司

ぬらりひょんの策略により蘇った片車輪。目玉おやじを人質に、人間の街を火の海に変えようとするのだが…!?

第31話「妖怪コマ回し勝負！」
脚本：吉田玲子　演出：土田豊　作画監督：出口としお　美術監督：西山正矩

カズオは山で妖怪・あまめはぎに出会い、挑まれた勝負に負けてしまう。その結果、彼はあることを要求されたのだが…!?

第32話「上陸！ 脅威の西洋妖怪」
脚本：三条陸　演出：角銅博之　作画監督：大谷房代　美術監督：白井走

西洋妖怪が鬼界ヶ島を占拠した。その島に住むアマミ一族を守るため、鬼太郎たちは精鋭チームで彼らを迎え討つ！

第33話「大逆襲！ 日本妖怪」
脚本：三条陸　演出：中尾幸彦　作画監督：八島善孝　美術監督：北村芳子

「地獄の鍵」を求めて鬼界ヶ島を襲う西洋妖怪と、激闘を繰り広げる日本妖怪たち。鬼太郎は幽霊族の秘術で立ち向かう！

第34話「妖怪横丁の地獄流し」
脚本：長谷川圭一　演出：勝間田具治　作画監督：藪本陽輔　美術監督：西山正矩

宝石強盗3人組の乗る車に鷲尾がはねられ、意識不明の重体に。ねずみ男の案内で、強盗たちは妖怪横丁に現れるが…!?

第35話「死神の極楽ツアー」
脚本：吉田玲子　絵コンテ：入好さとる　演出：立仙裕俊　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：清水哲弘

余裕のない家計を気遣って横丁の旅行に参加しなかった骨太は、父親である死神九九号の仕事ぶりをこっそり見に行き…!?

第36話「レスキュー 目玉おやじ」
脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：中尾幸彦　作画監督：八島善孝　美術監督：西山正矩

消防士モノのテレビ番組にハマった目玉おやじ。早速、妖怪横丁ファミリーレスキューチームを結成するが…？

第37話「鬼太郎敗北！ 怨念の鬼髪」
脚本：長谷川圭一　演出：角銅博之　作画監督：仲條久美　美術監督：吉田智子

突然髪を切られる連続通り魔事件が、人間の街で起きていた。鬼太郎は、妖怪ポストに届いた手紙を頼りに調査を進める。

第38話「パパになった ねずみ男」
脚本：真倉翔　演出：西沢信孝　作画監督：信実節子　美術監督：白井走

偶然、妖怪の赤ちゃんを見つけたねずみ男。横丁で世話をしてもらおうとするが、赤ちゃんはなぜか彼にしか懐かず…!?

第39話「ぬらりひょん最期の日」
脚本：三条陸　演出：深澤敏則　作画監督：出口としお　美術監督：清水哲弘

捕らわれたぬらりひょんを助けようと、旧鼠はかまいたちに協力を求めた。そんな中、ぬらりひょんは処刑日を迎え…!?

第40話「大フィーバー！ 鬼太郎グッズ」
脚本：吉田玲子　演出：貝澤幸男　作画監督：大谷房代　美術監督：白井走

横丁に来たクレープ屋のせいでつるべ落としと小豆洗いは商売上がったり。ふたりは目玉おやじに相談するが…。

第41話「打倒鬼太郎！ ねずみ男大逆襲」
脚本：長谷川圭一　演出：畑野森生　作画監督：小泉昇　美術監督：清水まこと

自身の骨から作るスープで舞首を蘇らせようとする骨女。彼女はねずみ男に、舞首を使って世界征服をしようと誘い…!?

第42話「オベベ沼の妖怪かわうそ！」
脚本：三条陸　演出：土田豊　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：清水哲弘

ある村で女の子の声が盗まれる事件が発生。妖怪ポストからの手紙で、事件の犯人がかわうそだと聞いた鬼太郎は…。

第43話「妖怪ミステリー列車！」
脚本：吉村元希　演出：角銅博之　作画監督：藪本陽輔　美術監督：西山正矩

福引きで一等を当てた鷲尾とろくろ首は、横丁のみんなと一緒に列車の旅へ。だがこれは、ある妖怪たちの罠だった…！

第44話「チョイ悪！ 目玉おやじ」
脚本：吉田玲子　演出：勝間田具治　作画監督：八島善孝　美術監督：白井走

ねずみ男に勘違いされ、自分が目玉おやじに似ていると気付く毛目玉。それを利用して鬼太郎を騙そうとするが…!?

第45話「ネコ娘騒然!? 妖怪メイド喫茶」
脚本：真倉翔　演出：深澤敏則　作画監督：仲條久美　美術監督：立花コウキ

客が行方不明になるメイド喫茶の噂を聞きつけた鬼太郎。妖怪の仕業なのかを確認するため、店を偵察していると…？

第46話「ヘビ女ゴーゴンの晩餐会」
脚本：三条陸　絵コンテ：入好さとる　演出：立仙裕俊　作画監督：信実節子　美術監督：清水哲弘

以前から日本へ潜入していた西洋妖怪・ゴーゴン。彼女はある目的のため、鬼太郎たちをグルメビルへと招待する。

第47話「妖怪大裁判」
脚本：三条陸　絵コンテ：八島善孝　演出：門田英彦　作画監督：伊藤智子　美術監督：西山正矩

人間の街を救うためとはいえ、地獄の業火を使った鬼太郎。罰を受けていた彼は、さらに無実の罪を着せられて…!?

第48話「戦う！ ゲゲゲハウス」
脚本：吉田玲子　演出：西沢信孝　作画監督：出口としお　美術監督：白井走

井戸仙人の薬で鬼太郎の家が意志を持った。服や下駄を横丁のみんなに作ってもらったゲゲゲハウスだったが…!?

第49話「あの世の七人ミサキ」
脚本：木原大輔　演出：角銅博之　作画監督：小泉昇　美術監督：清水まこと

呼子は家賃を払うため、携帯電話に呼びかけると困っている人へメールが届く力を使い、ねずみ男の商売を手伝うが…。

第50話「呪いの花嫁！ 陰摩羅鬼」
脚本：吉村元希　演出：畑野森生　作画監督：浅沼昭弘　美術監督：清水哲弘

謎の病気に苦しむ邦夫は、チラシを頼りにねずみ男へ連絡する。早速、ねずみ男は鬼太郎をその家へ連れていくのだが…。

第51話「ネコ娘の東京妖怪見物」
脚本：三条陸　演出：土田豊　作画監督：八島善孝　美術監督：西山正矩

アマミ一族のミウとカイの東京観光案内を引き受けたネコ娘。だが、訪れたショッピングモールで謎の大地震が起こり…!?



スタッフ

プロデューサー：
高瀬敦也（フジテレビ）、
成戸真知子（フジテレビ）、
木村京太郎（読売広告社）、
池田慎二（読売広告社）、
櫻田博之（東映アニメーション）、
情野誠人（フジテレビ）
原作：水木しげる
連載：「おともだち」、
「たのしい幼稚園」、
「テレビマガジン」、
「コミックボンボン」（講談社）
シリーズ構成：長谷川圭一、三条陸
音楽：堀井勝美
OP主題歌「ゲゲゲの鬼太郎」
作詞：水木しげる　作曲：いずみたく
編曲：堀井勝美　歌：泉谷しげる
ED主題歌「ウラメシ夜」
作詞：t@28　作曲：UZA
編曲：大野宏明　歌：長井秀和
「妖怪横町ゲゲゲ節」
作詞：山田ひろし
作曲・編曲：太田美知彦
歌：スワベジュンイチ
制作担当：岡田将介
キャラクターデザイン・
総作画監督：上野ケン
美術デザイン：吉田智子
色彩設計：板坂泰江
シリーズディレクター：貝澤幸男
制作協力：東映
制作：フジテレビ、読売広告社、
東映アニメーション
脚本：長谷川圭一、三条陸、
吉田玲子、真倉翔、吉村元希、木原大輔
原画：太田優喜、永木龍博、
信実節子、芹田明雄、市川吉幸、
斉藤真由、村上直紀、山口泰弘、
服部一郎、鈴木太貢朗、大山康彦、
仲條久美、兼高里圭、薮本陽輔、
中村純子、原田竜作、若林晶、
岩木孝司、小林慶輝、伊藤智子、
野津美智子、大谷房子、西田浩二、
大河内忍、池田志乃、下村こず恵、
川口千里、西川由希子、田辺由憲、
市川雅也、浅沼昭弘、上田明美、
深本泰永、山室津弥子、吉田直実、
羽坂英則、伊藤尚往、八島善孝、
出口としお、清山滋崇、内藤眞由美、
加藤愛仁、原田節子、飯塚葉子、
長崎重信、山室直儀、市川慶一、
さんごあおい、松尾亜希子、
石橋翔祐、近藤史門、古川和宏、
岡田誠司、阿尻隆司、川口幸治、
莉来楠、岡田圭介、井上なつき、
動画：TAP、M・S・J・武蔵野制作所、
サンシャイン・コーポレーション、
西野洋子、大森唯、かぐら、馬渡久史
背景：マジックハウス、常盤庄司、
清水まこと、北村芳子、安積裕子、
スタジオロフト、井上澈雄、劉基連、
Seoul ロフト、KLAS、佐々木友子、
今村立夫、鈴木慶太、吉崎優、
桑村幸、立花コウキ、居石有希、
中林由貴、平良亜梨沙、
漠プロダクション、西山正矩、
矢島伊都子、市谷正夫
デジタル彩色：TAP、
M・S・J・武蔵野制作所、
サンシャイン・コーポレーション、
かぐら、スタジオキャッツ
デジタル撮影：
三晃プロダクション、則友邦仁、
吉野和宏、峰岸智子、清水正道、
緒方美佐子、寺崎光喜、松平高吉、
石川晴彦、金子直広、福井道子、
岩本泰侑、佐伯英範、山口博睦、
花見早苗、福田有宏、夏原弘成
編集：片桐公一、後藤正浩、片瀬健太
録音：池上信照
編集助手：吉田公紀
録音助手：佐藤直哉
音響効果：今野康之
選曲：西川耕祐
記録：小牧文、橋口舞子
色指定：小日置知子
演出助手：まつもとただお、暮田公平、
土田豊、森一敏、田中浩司、小牧文
制作進行：田川文太郎、平井諭、堀越圭文
仕上進行：河本隆弘、北村聡
美術進行：ほんまおさむ
広報：遠藤恵（フジテレビ）
録音スタジオ：タバック
オンライン編集：TOVIC
音楽協力：
インデックスミュージック、
フジパシフィック音楽出版、
東映アニメーション音楽出版
美術：吉田智子、清水哲弘、白井走、
常盤庄司、清水まこと、北村芳子、
西山正矩、立花コウキ
作画監督：信実節子、薮本陽輔、
伊藤智子、仲條久美、八島善孝、
出口としお、清山滋崇、浅沼昭弘、
市川慶一、大河内忍、大谷房代、小泉昇
演出：貝澤幸男、角銅博之、
西沢信孝、土田豊、畑野森生、
門田英彦、中尾幸彦、立仙裕俊、
勝間田具治、織本まきこ、深澤敏則
絵コンテ：入好さとる、八島善孝



キャスト

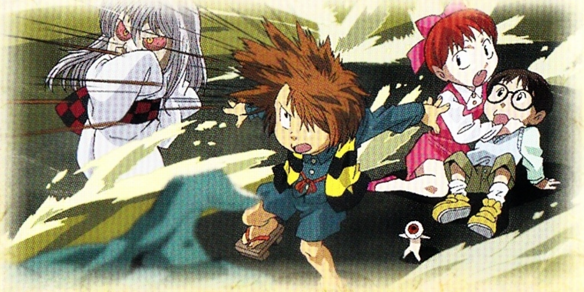
高山みなみ：鬼太郎
田の中勇：目玉おやじ
今野宏美：ネコ娘
高木渉：ねずみ男、シバテン
山本圭子：砂かけ婆
龍田直樹：子泣き爺、ぬりかべ
八奈見乗児：一反もめん
掛川裕彦：水虎、髪様
浦和めぐみ：白石
摩味：黒田
斉藤貴美子：赤井、老婆
日比愛子：青木、天狗の子、カッパの子、
少年、ガイド、ママ、ナコ
丸山優子：かわうそ
小西克幸：小豆洗い、朱の盤、傘化け、
五官王、編集長、ドラキュラ、川男、
ドラキュラ三世
佐藤正治：がしゃどくろ
大川透：社長
西川宏美：秘書
山本圭一郎：魚屋、大島、ゴミ清掃の男
田中大文：店員、助監督、少年、チャラ男、
アレン、天狗、警備員
大友龍三郎：夜叉、黒坊主
折笠富美子：月野小夜子
三宅健太：佐竹
平井啓二：山田、高田、若者、父、手長足長、
亡者、ナレーション、男性客、天狗
森岳志：川野、声
織田優成：長髪の男、ライター
雪野五月：綾、杏子
中友子：綾の母、お歯黒べったり
中尾良平：綾の父、審査員、男性、ウエイター
青野武：ぬらりひょん
根本幸多：舟幽霊、ゲームの音声、若者、少年
松本考平：舟幽霊、村の男、カッパ
沢木郁也：海座頭
田中亮一：五島
乃村健次：木村
阪口大助：小林、豆腐小僧、金吉
竹本英史：大久保、邪魅、フランケン、
死神百号
池田千草：千絵、女教師
葛城七穂：沼御前
川庄美雪：カップルの女
中山さら：呼子、子供、少女、乗客、お姉さん
豊嶋真千子：ろくろ首、クロ、子ぬりかべ
平野正人：油すまし
沼田祐介：カッパ、丸毛、すっぽん幽霊、
河童、警備員
津久井教生：のびあがり
郷里大輔：閻魔大王
広橋涼：座敷童子、メドチ
楠見尚己：夜行さん、火取魔、死神所長、
大天狗
佐藤ゆうこ：雪女
松原大典：職員、大学生
鈴木賢：職員、学生
相沢舞：子供
庄司宇芽香：子供、お菊、メイド、女、従業員
佐藤朱：子供
鈴木れい子：蛇骨ばばあ
高戸靖広：旧鼠、ワイルド、土転び、木久松
桑島法子：ひとみ・百々目鬼、骨太
私市淳：加牟波理入道、火出丸
長嶝高士：吉永、　見越し入道
宮田幸季：木下
高塚正也：アラン、天狗、吉川、つるべ火
岡本寛志：レポーター
松本孝平：大学生、アシスタント
金光祥浩：新宿の駅員、亡者、妖怪、天狗ポリス
今村直樹：奥多摩霊園の駅長、
プロデューサー
塩屋浩三：鈴木勇作
小林由美子：鈴村翔子、羽原舞
山口眞弓：孝太
佐藤智恵：順平、盧山辰美
園部啓一：村長
上村典子：お種婆さん、魔女、青子
川津泰彦：孝太の父、風首
麻生智久：助役、狂骨
井上富美子：女性アナウンサー
大塚周夫：白山坊
池水通洋：社長
太田真一郎：司会者、豆村
西脇保：タロウズ
田中一成：タロウズ、司会者、化け狸

金子英彦：審査員、天狗、カッパ
外村茉莉子：審査員、友人
前田登（はりけーんず）：山田
新井義幸（はりけーんず）：田中
前田愛：片岡千草
橋本晃一：片岡守
山崎和佳奈：片岡彰子
真殿光昭：以津真天
安田早希：明日美、女子高生、健一、子供、女の子、キジムナー、少女、乗客、メイド
広津佑希子：声、子供、少女、少年
相沢舞：声
渡辺武彦：ゴミ清掃の男
田中真弓：ぬりかべ女房、毛目玉
星野充昭：銀原
吉水孝宏：記者
徳山靖彦：カメラマン
丸山詠二：長老
三浦祥朗：正行
斎藤志郎：牛鬼
江川央生：つるべ落とし
稲田徹：逆柱、山下先生、片車輪
楠大典：しょうけら
中原麻衣：里奈、蕾

高木礼子：卓也
大本眞基子：サトシ、里奈、ユースケ
福原耕平：格闘マニア、天狗ポリス
古川登志夫：蒼坊主
柴田秀勝：バックベアード
中井和哉：目目連
久川綾：アリア・ブレスタイン
野中藍：里見、ザンビア
辻村真人：ガラッパ
千葉一伸：カンキチ
小松里歌：ネネコ、子供
遠近孝一：うわん
吉永孝宏：坂口
一条和矢：蛭田
戸塚利絵：少女
安西英美：少女、子供
草尾毅：鷲尾誠
西村知道：おどろおどろ、百々爺
斎藤貴美子：馬場、ナレーション
坂東愛：女性
鹿野優以：女性、女の子
木内レイコ：釜鳴り
佐藤聡美：女子高生、女の子、キジムナー、メイド

松野太紀：さざえ鬼
石塚運昇：枕返し、手の目
名塚佳織：舞子
進藤尚美：亮太、水恵
小野坂昌也：雨降り小僧
立木文彦：アカマタ
池澤春菜：アマビエ
宇垣秀成：悪霊
広瀬正志：五官王
宮坂俊蔵：亡者、男性客
村松康雄：毛羽毛現
矢田耕司：井戸仙人
白石涼子：二宮恵太、ミサ、ケースケ
須藤祐実：井森真名
笠原留美：雪女郎
飛田展男：あまめはぎ
服圓美里：カズオ
浅野真澄：ミウ
下野紘：カイ
森田成一：バルモンド
山野井仁：正岡
檜山修之：マヒマヒ
田中秀幸：死神九九号
緑川光：黒鴉

富沢美智恵：黒鬼髪
金月真美：白鬼髪
釘宮理恵：加奈
冬馬由美：赤ん坊
小山武宏：絹狸
菊池正美：かまいたち
沢海陽子：骨女
増谷康紀：火首
服巻浩司：雷首
笹島かほる：花子
西原久美子：べべ子、赤エイ
鈴木琢磨：祖父
島田敏：一目入道
伊藤かな恵：少女
茶風林：吸血鬼ピー
川浪葉子：モンロー
神田朱未：ルナ
三田ゆう子：古椿
粕谷雄太：男性客
坂熊孝彦：男性客
川上とも子：美女ゴーゴン
千葉繁：ゲゲゲハウス
伊井篤史：日郎
浜田賢二：月雄



★再生上のご注意★

- ●DVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応のプレーヤーで再生して下さい。
- ●作品を鑑賞する時は部屋を明るくし、画面から離れて見るようにして下さい。
- ●このディスクにはコピーガード信号が入っているため、コピーできません。プレーヤーからの映像出力をビデオデッキなどを経由して再生の場合、コピーガード信号の影響により映像が乱れる場合があります。DVDプレーヤーからの映像ケーブルは、直接モニターにつないで再生してください。
- ●片面2層ディスクでは、1層から2層に切り替わるポイントで一瞬映像が静止することがあります。これはDVDビデオの特性であり製品の不良ではありません。

取扱・保管上のご注意

- ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。
- ●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布を軽く水で湿らせ、内周から外周に向かって放射状に軽く拭き取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。
- ●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。
- ●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修されたディスクは危険ですから絶対に使用しないで下さい。また、静電気防止剤やスプレー等の使用はひび割れの原因となることがあります。
- ●使用後は、必ずプレーヤーから取り出し、DVD専用のケースに納めて、直射日光の当たる所や高温、多湿の場所は避けて保管して下さい。
- ●ディスクケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがありますのでご注意ください。

メニュー画面について

- ●本編再生中にメニュー呼び出し操作をすると、メニュー画面を呼び出すことができます。
- ●チャプターやエピソードなどに映像が区切られている場合、メニュー画面から設定されている場面の呼び出しが可能です。
- ●複数の音声（または字幕）を収録している作品は、メニュー画面からの選択操作により、希望する音声（または字幕）での再生が可能です。

※一部のタイトルは再生中のチャプター操作、音声選択操作ができないものがあります。

画面サイズと音声について

- ● 16:9 LB と表記されているタイトルは、映像が左右に圧縮して記 録（スクイーズ映像）されています。ワイドテレビ（16:9）でご覧いただく場合、テレビの操作（“フル”またはそれに準ずるモード）とプレーヤー操作によりワイドテレビに適切な画面でお楽しみいただけます。また通常のテレビ（4:3）をお持ちの場合でも、プレーヤーの操作により、レターボックス画面でお楽しみいただけます。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- ●音声がドルビーサラウンド、5.1chサラウンドなどで収録されている場合は、専用の音響システムを通じて再生すると、臨場感あふれるサウンドがお楽しみいただけます。
- ●DTS音声が収録されている場合、DTS音声の再生にはDTS対応のDVDプレーヤーとDTSデコーダーが必要です。

2 NTSC 日本国内向

●このディスクは、特定の地域についてのみ再生できるよう作成されています。従って販売対象として表示されている国や地域以外で使用することはできません。また販売については、表示されている国や地域を対象とし、国外へ輸出することは禁止されています。

（株）ハピネット　ピクチャーズユニット
カスタマー サポートセンター

弊社DVD商品の不具合等に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

フリーダイヤル 0120-128-990

お問い合わせ時間：平日（土、日、祝日を除く）
10:00〜13:00、14:00〜17:00

http://www.happinet-p.com


快適
4月号
リフォーム